

シンポジウム

未来に向けた川とまちづくり

— 川湊・石巻の歴史と発展 —

《 報告書 》

日時

平成30年10月20日

午後1時～午後5時

場所

石巻専修大学 5号館 5301教室

本シンポジウムは（一社）東北地域づくり協会のみちのくに国づくり支援事業の支援により実施しています

■ 主催 ■

北上川「流域圏」
フォーラム実行委員会

北上川リバーカルチャーアソシエーション、NPO法人北上川流域連携交流会、ガイア展勝の会、（一社）いわて流域ネットワーク、をんな川会議、川を知る会、北上川フィールドドライブクラブ、NPO法人奥州・いわてNPOネット、水とみどりの環境フォーラム-ものう、くりこま高原自然学校、NPO法人りあすの森、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、北上川下流河川事務所、北上川ダム統合管理事務所、岩手県、宮城県

■ 後援 ■

石巻市、石巻観光協会、石巻専修大学、宮城県建設業協会石巻支部、NHK仙台放送局、河北新報社、岩手日報社、石巻日日新聞、石巻がほ

■ 協賛 ■

（一社）東北地域づくり協会

シンポジウム

未来に向けた川とまちづくりー川湊 石巻の歴史と発展ー

川村孫兵衛らによる川の付け替えにより河川舟運が発展。川湊として江戸時代から栄えた石巻。

石巻発展の歴史を振り返りながら、東日本大震災からの復興に向けて進む「かわまちづくり」を学び、未来に向けた川とまちづくり、そして流域との繋がりを考える。

1. 主催者あいさつ

北上川「流域圏」フォーラム実行委員会 委員長 平山健一

2. 基調講演

●「信濃川における水辺活の取り組み」
～ミズベリング信濃川やすらぎ堤～
新潟市都市政策部
まちづくり推進課

次長
課長

鈴木浩信 氏

3. 歴史解説

●「川湊 石巻の歴史」

石巻市教育委員会複合文化施設開設準備室 室長
石巻専修大学 非常勤講師

佐々木淳 氏

4. 報告

●「旧北上川かわまちづくりの進捗状況」

北上川下流河川事務所 所長

高橋政則 氏

~~~~~

5. パネルディスカッション

●「未来に向けた川とまちづくりと展望」

コーディネーター

委員長(岩手大学名誉教授)

平山健一

パネリスト

・新潟市都市政策部  
まちづくり推進課  
・石巻専修大学  
・(一社)石巻観光協会  
・(株)街づくりまんぼう まちづくり事業部  
・北上川に舟っこを運航する盛岡の会

次長,  
課長  
准教授  
会長  
課長

鈴木浩信 氏  
庄子真岐 氏  
後藤宗徳 氏  
苅谷智大 氏

事務局長

阿部 優 氏

アドバイザー

・北上川下流河川事務所

所長

高橋政則 氏

~~~~~

日時:平成 30 年 10 月 20 日(土) 13:00~17:00

場所:石巻専修大学 5号館

石巻市石巻市南境新水戸 1 番地

~~~~~

主催:北上川「流域圏」フォーラム実行委員会

北上川リバーカルチャーアソシエーション、NPO 法人北上川流域連携交流会、ガイア展勝の会、

(一社)いわて流域ネットワーク、をんな川会議、川を知る会、北上川フィールドライフクラブ、

NPO 法人奥州・いわて NPO ネット、水とみどりの環境フォーラム・ものう、くりこま高原自然学校、NPO 法人りあすの森、

国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、北上川下流河川事務所、北上川ダム統合管理事務所、岩手県、宮城県

# 報 告 書

## <<<<<<< 目 次 >>>>>>>

|                |                              |              |      |
|----------------|------------------------------|--------------|------|
| 1. 主催者挨拶       | 北上川「流域圏」フォーラム実行委員会 委員長       | 平山健一         | - 1- |
| 2. 挨拶          | 宮城県議会議員                      | 斎藤正美 先生      | - 3- |
| 3. 基調講演        |                              |              |      |
|                | 「信濃川における水辺活用の取組み」            |              |      |
|                | ～ミズペリング信濃川やすらぎ堤～ 新潟市都市政策部 次長 |              |      |
|                | まちづくり推進課 課長 鈴木浩信 氏           |              | - 4- |
| 4. 歴史解説        |                              |              |      |
|                | 「川湊 石巻の歴史」                   |              |      |
|                | 石巻市教育委員会複合文化施設開設準備室 室長       |              |      |
|                | 石巻専修大学                       | 非常勤講師 佐々木淳 氏 | -21- |
| 5. 報告          |                              |              |      |
|                | 「旧北上川かわまちづくりの進捗状況」           |              |      |
|                | 東北地方整備局 北上川下流河川事務所           | 所長 高橋政則 氏    | -33- |
| 6. パネルディスカッション |                              |              |      |
|                | 「未来に向けた川とまちづくりと展望」           |              | -43- |
|                | ・自己紹介・活動・川湊石巻と北上川の印象         |              | -43- |
|                | ・川を活かしたまちづくり(課題・提案)          |              | -49- |
|                | ・流域各地との広域連携による石巻の活性化         |              | -59- |
|                | ・会場との意見交換                    |              | -64- |
|                | ・まとめ                         |              | -66- |
| -----          |                              |              |      |
|                | ◇ コーディネーター                   | 実行委員長 平山健一   |      |
|                | ◇ パネリスト                      |              |      |
|                | ・新潟市都市政策部                    | 次長           |      |
|                | まちづくり推進課                     | 課長 鈴木浩信 氏    |      |
|                | ・石巻専修大学 経営学部                 | 准教授 庄子真岐 氏   |      |
|                | ・(一社)石巻観光協会                  | 会長 後藤宗徳 氏    |      |
|                | ・(株)まちづくりまんぼう まちづくり事業部       | 課長 荻谷智大 氏    |      |
|                | ・北上川に舟っこを運航する盛岡の会事務局長        | 阿部 優 氏       |      |
|                | ◇ アドバイザー                     |              |      |
|                | ・東北地方整備局 北上川下流河川事務所          | 所長高橋政則 氏     |      |
| -----          |                              |              |      |
| 7. 登壇者プロフィール   |                              |              | -67- |

主催者あいさつ

北上川「流域圏」フォーラム実行委員会

委員長

平山健一



皆さん、こんにちは。

北上川「流域圏」フォーラム実行委員会の委員長をしております平山と申します。

このたびは北上川の玄関、石巻でシンポジウムを開催することができまして、大変うれしく、また、ありがたく思っております。熱心な皆様のお集まりに本当に感謝をしているところでございます。

皆さんご存じのように、北上川は北から南に真っすぐ太平洋に注いでおりますが、その漣筋は、東京に至る最短のルートでございまして、舟運の時代が道路や鉄道にかわった後もそのルートは変わらないで交通路が維持されてまいりまして、舟運の時代にできました強固なネットワークは今も脈々と維持されているところでございます。流域社会にとってこの一体感、そして石巻がその玄関口であるということは、上流に住む我々が本当に強く思っているということをまずご理解をいただきたいと思っております。

北上川「流域圏」フォーラムという実行委員会は、この北上川流域社会が歴史の中で育んできた、北上川が持っている固有の一体感、人のネットワーク、そういうものを生かしながら、災害や広域の観光やら、そういうものに何かお役に立てないかということで集まったグループでございます。市民団体を主体としておりますが、宮城県、岩手県、そして国の事務所などが一体となって官民連携の活動を続けている任意団体でございます。3年前から年に1回北上の展勝地で北上川流域圏推進交流会議を開催しまして、民間団体からいろ

いろな活動の発表をいただいたり、行政との意見交換、あるいはホームページを運用しまして情報の共有を図っているところでございます。

そういう場を提供しているのがこの会ですが、そういう活動のほかに、本日のようなシンポジウムを各地で開催してございまして、各地の皆様と一緒に北上川のことを考えてみましょうという投げかけをさせていただいているところでございます。

今回のシンポジウムでは、先ほどお話ございましたように、東日本大震災で大きな被害を受けましたこの石巻、そして大きな決断をされて、今新しいまちづくりに専念されているところでございますが、そういうところで開催させていただくのは、大変我々にとってもやりがいがあることでございます。我々が持っている情報、そして先進地域の知恵をご紹介させていただきまして、流域全体で何か石巻をサポートできる仕組みができないのかということを考える機会にさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思っております。

きょうは基調講演、歴史解説、報告に続きまして、パネルディスカッションを行います。

基調講演では、新潟市内を流れております信濃川、これは大きな堤防、やすらぎ堤という堤防がございまして、そこでミズベリングプロジェクトを展開しております、また、その総指揮にあたっております新潟市の都市政策部の次長でございます鈴木浩信様から、水辺活性化の取り組みの先進的なお話をまずお伺ひしたいと思っております。

次に、石巻の新しいまちづくりのイメージ、これは多分川湊ということだと、歴史ということだと思いますが、その発展の過程、歴史ですね。それを石巻市教育委員会の複合文化施設の開設準備室の室長をやっておられます佐々木淳先生にお話をいただきたいと思います。

続きまして、報告でございますが、国土交通省東北地方整備局の北上川下流河川事務所の所長、高橋政則様から現状をお話いただくことになっております。

その後に続きまして、パネルディスカッションでは、ご講演をいただきました鈴木様、高橋所長にもご参加をいただき、加えて石巻専修大学の准教授の庄子真岐先生、一般社団法人石巻観光協会の会長でございます後藤宗徳様、株式会社街づくりまんぼうまちづくり事業部課長の苅谷智大様、「北上川に舟っこを運行する盛岡の会」の事務局長阿部 優様にご参加をいただくことにしております。

新潟よりはるばるおいでいただきました鈴木様はじめ、お話をいただく皆様には、大変お忙しいところ参加いただきまして、本当にありがとうございます。会場の皆様ともども、本日の議論をぜひ盛り上げていただきたいようお願い申し上げます。

また、本日は石巻専修大学の学生さんも何人かお見えになっているということでございますので、この石巻の昔、そして現在の動いている姿を理解しながら、未来に向かってまちづくりの力強い戦力に育ってほしいものだと期待をしているところでございます。

また、最後になりましたが、当シンポジウムの開催にあたりましては、一般社団法人東北地域づくり協会様、国土交通省北上川下流工事事務所様、石巻市役所様、石巻観光協会様、そして石巻専修大学様に大変お世話になっております。また、そ

他の皆様の多大のご支援をいただき開催されるものでございまして、この場をかりてお礼を申し上げ、開会にあたってのご挨拶にかえさせていただきます。よろしく申し上げます。



## あいさつ

## 宮城県議会議員 斎藤正美先生

皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました斎藤正美です。

ネットを見て参加したいと思って来たんですが、こうしてご挨拶をする機会をいただきまして、大変ありがたく思います。

本日のシンポジウム「未来に向けた川とまちづくりー川湊・石巻の歴史と発展ー」、こうして開催されますこと、元岩手大学の学長先生であります平山先生が委員長で主催されるということ、本当にもったいないというか、石巻にとってありがたいなと思って今も伺っておりました。それから、基調講演、さらにはパネリストの諸先生方、きょうは本当にご苦労さまでございます。

私は、石巻で生まれ育ち、石巻でこうして住まわせていただいて、あの東日本大震災、本当にいろいろな思いを今もしておりますが、その中で口々に言うのが、復興をただの復旧・復興にとどまることなく、さらにという話をよくされるわけですが、その中で私は特に強調したいのは、高橋所長さんはじめ皆さん方のおかげをもちまして、石巻のこの地域の北上川の復旧・復興が単なる復旧にとどまらず、さらに先を見据えたまちづくりに一生懸命頑張っていることを、私は石巻市民の一人として大変ありがたく心強く感じているわけですが、本日きょうご出席している皆様も同じではないかなと思っております。

私は、北上川を見ながら育ったものですから普通なんです、これだけの大河というものはありがたい。そして、私が青年会議所時代に、きょうは後藤会長さん、理事長経験者ですが、私は万年

ヒラでございましたけれども、それでも北上川の源流を探る会といって、小学校5・6年生を対象に1泊2日で青年会議所の行事として行ったのを今でも鮮明に覚えている次第であります。

ですから、これからはこういうシンポジウムを一つの契機といたしまして、北上川でつながる交流、各市町との交流、こういうのも大きく育てていきたいなとは思っておりますので、平山先生にはそういう意味でいろいろとご指導いただき、きょうお集まりの皆さんとともに歩んでいきたいと思っております。

この石巻、北上川を生かしたまちづくりをしっかりと皆さんとともに進めていきたいと思っておりますので、きょうのシンポジウム、有意義になりますように、そしてまた、この関係者の皆さんのご健勝をお祈り申し上げまして、はなはだ僣越ではございますが、一言の挨拶とさせていただきます。本日は皆さん本当にご苦労さまです。ありがとうございました。



## 基調講演 「信濃川における水辺活性化の取り組み」

～ミズベリング信濃川やすらぎ堤～

新潟市都市政策部次長

まちづくり推進課長 鈴木浩信氏



皆さん、こんにちは。

ただいまご紹介にありました新潟市都市政策部、いわゆるまちづくりを所管しておりますまちづくり推進課長の鈴木でございます。

まず、きょうのこの基調講演というところの中で、新潟市の信濃川の取り組みというところで、まず何でもまちづくり推進課というところがかかわっているのかを若干触れさせていただきます。



今、皆さんのご紹介のほうでは、都市政策部次長とか、ミズベリング統括なんて、すごいえらい肩書きをいただいているんですが、自己紹介ありますように、私、1966年、ひのえうまという方がわかるかな。66年生まれでございます。89年、平成元年になりますが、市役所に入庁して以来、下水道、土木、それから都市計画、一個前は都市計画の課長をやらせていただきました。2015年からまちづくり推進課長、今は兼務という形になってはいますが、やらせていただいております。

### 自己紹介



鈴木 浩信

1966年 新潟市生まれ

1989年 新潟市役所入庁

↓ 下水道、土木、都市計画を経て  
2015年～ まちづくり推進課

### まちづくり推進課

<使命>

市民の皆さんや民間企業が行う、様々な「まちづくり」を応援や支援、実施

協働

<主な業務>

市街地整備(再開発、区画整理)の認可  
都市デザイン(景観、**まちなか活性化**等)

まず、私もまちづくり推進課の課の使命としてミッション的なものは、基本的には、市民の皆様方の活動を支援をしていく。また、民間企業の方が新しいまちづくりをやりようとしているものに、何かお手伝いをしていく。この本来新潟市がやるべきこともあるんでしょうけれども、そこは民間の方がこうしたいという部分は何とか、荒っぽい言い方をしますと、何かねじ曲げてでも何か皆さんの努力なりを酌んで一緒にしたいなというのが、この仕事の職務です。

その中で、主な業務というと、堅い名前になっていますが、市街地整備、いわゆる再開発事業ですとか、区画整理事業というものの認可というところで持っています。ただ、事業主体は全て組合ですとか、個人施工という形になっていますので、基本的には許認可の順番があります。

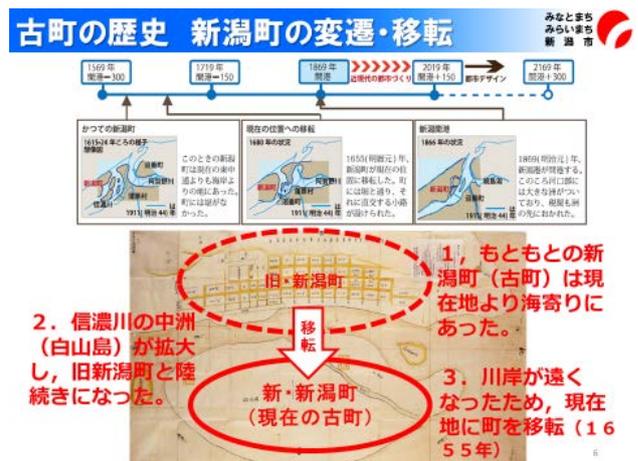
それからもう一つ、都市デザインという格好い

い名前がついていますが、そんな格好よくないんですよ。景観のルールですとか、屋外広告物の規模がどうだとかという部分を協議をするというよりは、いろいろなところで相談をしておきながら、ちょっと工夫をしたことによって、調和のとれた風景になりますよねというような景観行政もかかわってございますし、また、町なかの活性化、これはどこの地方都市もみんなそうです。新潟市、政令市になっても、やはり人口減少はなってきましたし、町なか、中心部の衰退も進んでいます。そんな中で、やはり本来賑わうべきところが賑わなければ、都市全体の活力にはならないということで、どこの都市も町なかの活性化というところでくくっているわけですが、今回ご紹介申し上げます信濃川やすらぎ堤のミズベリングというものにつきましては、いわゆる町なかというそのど真ん中にある河川空間を、この一番最初にご紹介しました市民の皆さん、市民の方々があそこで何かをしたいというものについて、これは町なかの活性化にかこつけて一緒にできるんじゃないかというところが、今回皆様方にご紹介できるような事例として提起したところでございます。

年ですね、周りの13市町村と合併をして新潟市、また、政令市という形にならせていただいたものでございます。一個前の国勢調査の段階では、人口が81万人というところまでいったところですが、直近の住民基本台帳関係を見てくると、80万を切っているときもあるというところで、やはりちょっと衰退の糸が出てきているかと思っております。

新潟市の特徴、日本海側というところもありますが、何と言ってもこの緑色で塗られていますここ、ほぼ水田、農地でございます。海岸線に約50キロとかね。奥行きとして25キロという形なので、厚い部分もありますが、ほぼ平らです。ここに1カ所、ちょっと山という部分があっても、山なんて言ったら、たかだか34メートルの山しかありませんので、丘か何か遙かにあるぐらいの滑りです。あとは全部平らです。ですので、水田の面積もおかげさまで全国1位ですし、あとお米関係も1位、それから農業生産額というのも全国4位という部分での都市の成り立ちでございます。

次に、ちょっと簡単に新潟市の生い立ちの説明をさせていただきます。



新潟市なんて言うのは明治に入ってからですが、その前までは信濃川の河口にたまった砂という形であったものを、ちょうどもともとはこの海岸のほうにあった新潟の町並みを、堆積した土砂が川

まず、新潟市のご紹介をさせていただきます。

政令市になりました。政令市になって平成17

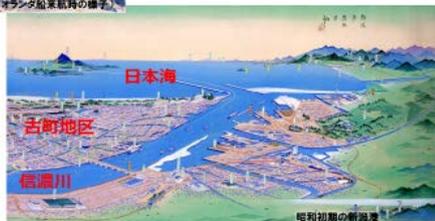
を埋めたことによって、町ごとよっこいしょと下に持ってきました。下に持ってきて、ここ上がってきたところについては、松林というような状態で、防砂林という形で今ございますし、町なかごとそのまま移転をしてきたということで、やはりどうしても川の砂と、それから海岸の砂とたまって、ちょっと地形も若干変わったりしてきます。後半になってきて、ちゃんと今の新潟市の形にはなってきたおるんですが、北前船の関係で入港してきた船をこの信濃川及び、ここ阿賀野川という河川がありまして、これ会津とか福島の方に行っている川になりますけれども、それを使いながら農作物を運び出して、西門周りをして出していたというようなところでございます。

## 古町の歴史 新潟の開港・近代化



江戸時代から北前船の主要な寄港地として繁栄した新潟町（現在の古町地区）は、安政の5ヶ国条約において、函館、横浜、神戸、長崎とともに開港5港に指定され、明治元年に開港した。

開港後の新潟町は、周辺の町や村と合併・発展し、明治22年に新潟市に移行した。



これ、江戸時代、それから北前船の主要地という形で、新潟市も石巻同様、川湊として発達しています。やはりどうしても堆積によって浅くなってしまうので、24時間浚渫はしてございますし、また、大型のコンテナ関係は、この場所ではなく、もっと北側のほうのところに東港という港をつくりまして、そこが主に貨物の港という形で、ここは川湊だった商業港としての名残がほぼあるだけの港になっています。

## 古町の歴史 近代～現代



一方、信濃川沿いにありましたこの西堀、東堀という堀という名前がついているんですが、ここ一番堀もありますが、全部ここ碁盤の目のように堀がめぐらさせておりまして、入港してきた産物をこの堀を使って荷物をおろすと。ここは京都と、それから新橋と、それから新潟という形で三大花街と言われたくらいにぎやかだったときがあるんですが、そこが華やかになったことも、その北前船のおかげで港町として発展をしてきたというところの経緯がございます。

それで、いよいよ信濃川とやすらぎ堤緑地のお話をさせていただきます。

## 信濃川



まず、信濃川でございます。信濃川、日本一の長さを誇る川でございます。源流は長野県、長野県にいるときは千曲川という名前になっておりま

すが、新潟県に入ってきて信濃川という名前が変わってございます。延長は367キロ、流域面積も1万1,900ということで、ほぼ日本で3番目の流域だとネットでは書いてありました。

この青で塗っている部分が信濃川なんです、この信濃川を上流からずっと来まして、この赤く塗られているところから新潟市に入るわけですが、途中、ちょっと画面下のほうに大河津分水路というところと、それから町の中に来た関屋分水路というこの2つの分水で水量あるときに出してもらっていますので、比較的落ちついた川になっています。



次に、信濃川やすらぎ堤ということで、今ほど信濃川がずっとこう流れてきて河口になってございますが、ここが関屋分水路になります。真ん中にありますこの渦みたいなのは、鳥屋野潟という、これも1級河川の湖沼になってまして、ほぼここゼロメートル地帯です。ですので、全部の水は一旦この鳥屋野潟というところの渦に入ってきてしまいます。そこから強制的にこの放水路を使って信濃川のほうに出しています。今、ここの排水機場がなる前までは、ゼロメートル地帯でございましたので、ここ今デンカビッグスワンですとか、エコスタジアムという野球場を建てて、ここに新潟市民病院がございまして、アイスアリーナがあ

って、消防本部があってという形の開発を進めている地区でございまして。

ここについては、この治水、排水機場がないときは、田んぼも腰まで浸かって舟に乗って稲を刈ったりというところで、地図にない沼とか言われているぐらいずぶずぶの土地だったところを、排水機場の整備によって乾田化されて、今の日本一と言われている田んぼをつくれるぐらいになりましたし、あと新潟駅から比較的至近距離で、4キロぐらいですので、ここでワールドカップをやらせてもらったり、新しい開発をして進んでいます。

今回お話しさせてもらいますやすらぎ堤というところで、この旧新潟町、それから南のほうにだんだん市街地が延びていったんですが、このちょうど間に挟まれたこの場所について、駅から1キロちょっと、2キロないぐらいのところの距離感でやすらぎ堤というのは位置しています。

**信濃川やすらぎ堤整備事業**

- 洪水による被害を防ぐことに加え、良好な水辺環境の創出に配慮した**全国初の5割勾配の緩やかな斜面を持つ堤防**、「やすらぎ堤」の整備が、S62年から進められている。**(現在の堤防整備率:約80%)**
- 堤防の整備と合わせ、「やすらぎ堤緑地」を新潟市が整備し、水辺空間と一体となった憩いの場として多くの市民に親しまれている。

○河道掘削土砂による築堤 (整備断面図)

○やすらぎ堤断面イメージ

この信濃川のところは、そもそもやすらぎ堤整備事業ということで河川事業として行っていただいたところがございます。ここにつきましては、洪水による被害を防ぐことに加えて、こののり面をつくってもらって、水辺の環境を創出してもらうということで、全国その当時初の5割勾配の軽緩斜の堤防をつくっていただいたところがございます。それが、昭和62年から整備を進めておりまして、予算の範囲で大体一番スタートしたのがこの新潟市役所、白山公園と言われているここぐ

らいから、左岸の下流を下がって行って上流で、左岸がほぼ終わると今度は右岸へ移って、右岸は下流からずっとやって、今は上流の工程をやっているということで、進捗は全体の今8割ぐらいでやっています。

にと言うとおかしいですけども、皆さんが市民団体をはじめとして楽しみながら使ってきたというのが、そもそもの原因であります。

次に、いよいよミズベリング信濃川やすらぎ堤という内容にいきます。

### 信濃川やすらぎ堤整備事業

八千代橋から萬代橋を望む

魅力的な水辺空間の創造 観光資源、街のにぎわいを創出

水辺のイベント件数

| 年次  | イベント件数 |
|-----|--------|
| H17 | 10     |
| H18 | 15     |
| H19 | 20     |
| H20 | 30     |
| H21 | 40     |
| H22 | 50     |
| H23 | 60     |
| H24 | 70     |
| H25 | 80     |

### ミズベリング信濃川やすらぎ堤

都市・地域再生等利用区域の指定  
(水面を含め最大級の面積！)

新潟市→北陸地整へ要望

H28.2.25区域指定

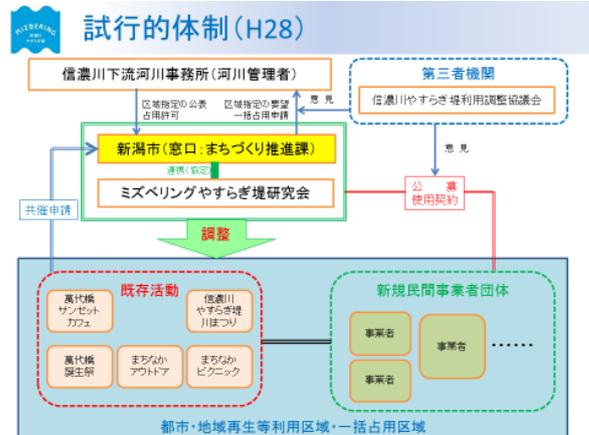
そんな中、やはり当時として珍しかったのもありますが、今までこの60年ごろはやはりこういう護岸に船舶が泊まって、堤防でしたので、桜の木は植わっていましたが、それを河川管理者の方が5割勾配と平らな部分という形、緑地としてつくっていただいたところがございます。

まず、指定した区域の範囲につきましては、阿賀野川の八千代橋、それから萬代橋、これは重要文化財にもなっていますけれども、萬代橋と八千代橋の間、延長約600メートル、川幅約300メートルというこの区域の中で、約18ヘクタールとありますが、水面も含めまして区域設定をいただきました。それが28年の2月ですので、27年度末になってございますが、国からうちの市長に直接交付していただいたところがございます。

市街地側、これも石巻さんもやられていますけれども、盛って緑地としてこれは新潟市が整備をして、一体的に活用を図っているというような整備にしましたので、当然水辺のイベント数というものも年々増えていっていますし、また、日々の使い方でも、桜の時期になれば、イベントがなくても、お弁当を持ってきてこの辺で食事をしたりするなどの使い方が根づいてきたところがございます。

27年度末に区域指定をもらいましたので、28年度です。

でも、当然ここでこういう形でイベントをしているという間、対岸で河川の工事をしていたり、部分的にやっているんですけども、できたところから皆さんが自分のところのこの緑地はどういう使い方ができるんだろうかみたいな形で、勝手



そうはいつても、区域指定をもらったから一体

何をしようかみたいな部分は、正直なところありました。当然、指定をもらう前までは、いろいろな団体の方と活動をしていて、区域指定に挑戦しようかということにしていましたけれども、まず既存のそれぞれやっていたイベントをしている団体が実際にありました。

萬代橋サンセットカフェ、これも今年で12年やっていますが、市と協賛で萬代橋のそばで萬代橋を見ながらコーヒーを飲めるのが一番の贅沢だと。ましては、ビルの中に夕日が沈むのがおkazになるということで、単独でやり始めたサンセットカフェというところがございます。それから、「信濃川やすらぎ堤川まつり」という名前のところにつきましては、沿線にある放送局が5月のゴールデンウィークのときに鯉のぼりを並べてフリーマーケットですとか、ライブをしているような川まつりというのが大体ここやっております。あと、萬代橋誕生祭、これは萬代橋、重要文化財になってお誕生日をみんなで祝おうよという形の団体がございます、そんなような団体ですとか、まちなかアウトドア、せっかく水辺のそばであれば、何かしらあのやすらぎ堤、川を使って何か遊ぼうということで、カヌーをしたり、ちょっと泊まったという怒られるかもしれませんが、そこで寝泊まりしてみようとか、そんなことをやっている団体があります。それから、まちなかピクニックということで、ピクニックといっても、別にお弁当からものを販売するんじゃなくて、みんな自分で持ってきてくださいと。ただし、共通なエアマットみたいな敷物だけはお貸ししますと。まちなかのピクニックなので、何を持ってきてどんなスタイルにしようかは、皆さん自由ですと。持ってきたときに、今度事務局の方が1個1個そのマットのところを回って、どんなお弁当なり何を持ってどんなピクニックをしているのかというものを写真でアップをして、コンテストみたいな

形をしてというところの団体がおりまして、まちなかピクニックという団体。

このような既存活動している団体が実際おりましたので、そんな人たちと一緒に何か共通でできないかと。いわゆるイベント単体であれば、それこそ集客はあるんだけど、ふだんの日常使いはなかなかいけないよねという部分が非常に皆さん思っていて、それであれば期間限定でも何でもいいけれども、ちょっと新たな活動者もそうですし、また、ちょっとその範囲の中で何かをやってみませんかというところで、じゃ新潟市はイベントでも何でもいいです、カフェでも何でもいいです、一旦公募させてもらいました。公募させてもらったら、やはり「いや、俺はおでん屋をやりたい」とか、「俺はバーベキュー屋をやりたい」とか、ビアガーデンしたいとかという方がいらっしゃいましたので、そこを公募させてもらって、やすらぎにふさわしいかどうかというのはあるですけども、このやすらぎ堤利用調整会議とされているこの外部の有識者の組織をつくりまして、この第三者の委員会の方々から、僕がこれをやりたい、ドッグランをやりたいとか、何かしたいという方を審査というか、意見をいただいたところで、1回目、新潟市が直接この出店する事業者と契約を結ぶことによって、やすらぎ堤のミズベリングというのをスタートしたところでございます。



これはオープニングです。オープニング、一番

最初です。今思うと、海の家なのか、何なのか、よくわからない感じになっていますけれども、大体このパラソル単位の人がここの店舗の人になったりとか、あと若干ちょっと見にくいんですけども、この堤防のこの上にも少しお店が出たりとかして、とりあえずこんな感じでスタートしたところでございます。



### 平成28年度の実施状況



- 店舗数 11店舗  
右岸(万代側)9店舗  
左岸(古町側)2店舗
- 出店期間  
6月19日～12月25日  
※殆どの店舗が9月末で終了
- 内容  
オープンカフェ、バーベキュー、ビアガーデンなどの飲食店等
- 売り上げ(推計)  
約2,500円/人
- 利用者数(推計)  
約30,000人(7～9月)

その結果、夜も11店舗、右岸がやはりどうしてもバスのターミナルとか商業施設が近いので、右岸は9店舗あるんですが、左岸については2店舗だけというそれぞれのバランスもありましたが、そんなところからスタートしています。

大体新潟の梅雨明けは7月の半ばぐらいまではどうしても引っ張るんですが、意外に長雨が続くということはないので、6月19日からスタートした12月25日、これ全部この店舗が12月25日いたわけでもなく、出入りとか、最終的に何軒かが12月までやっていたというパターンなんですけれども、やっていました。

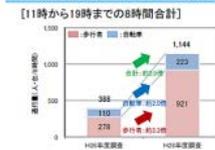
内容は、オープンカフェ、それからバーベキュー、ビアガーデンという飲食店がほとんどです。

その結果、28年度につきましては、売り上げは、1人当たりの推計、客単価ですね。2,500円という客単価で、利用者数が約3万人あったところでございます。



### 取り組みの効果

【信濃川右岸側の歩行者・自転車通行量】



【信濃川左岸側の歩行者・自転車通行量】



今度、実際にそのミズベリングだけの利用というのは当然あれですけども、それ以外にどういうふうに関りに影響があったかというのが、市のほうで調査した結果です。右岸の歩行、自転車、それから左岸の自転車・歩行者というところを見た中で、当然ミズベリングをやっている間については、歩行者もピーク時でほぼ4倍の増加もありますし、また、11時から19時までの8時間、左岸についてもほぼ右肩上がりといったという取り組み効果があって、本当にお客さんがミズベリングの後、町なかに繰り出してくれたのかどうかというところまでは、ちょっと追いかけてないんですが、だいが町への影響も大きかったということがここでわかったわけでございます。

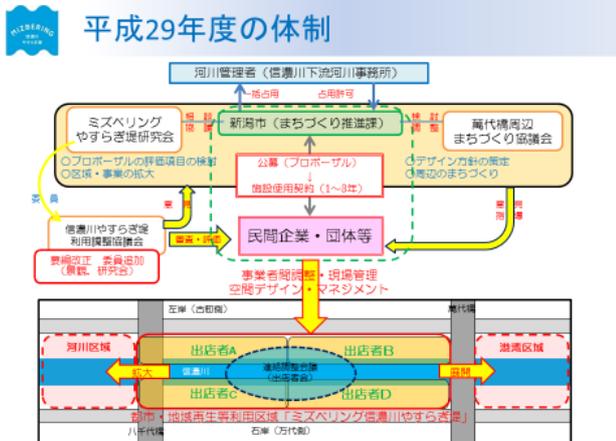


ただし、やってみたものの、実情はやはりブルーシートは横にあたりとか、トリコロール柄のパラソルがあって、何かちょっとごちゃごちゃした景観だなと。場合によっては、ここは何かちょ

っと何かの小屋みたいなどころのがあったりとか、ちょっとごちゃごちゃしていて、誰か交通整理がいるんじゃないかと。あとはやはりビアガーデンとか、そういうものに限定されているので、家族で楽しむようなお店がちょっとないねと。あと、本当に飲食しないお客さんが、普段使いでウォーキングとかジョギングをしていたけれども、邪魔になってしょうがないと。共存ができなくなってきた。置きっ放しなんで、芝生ってだいぶ傷みますねという話と、それから自分たち、おのおのがごみ収集のお願いをしている。何か効率悪いんですよねというような意見があったところがございます。

この中で、ミズベリング全体のマネジメントというの、我々行政じゃなくて、誰かにお願いする必要があるのかなというところに気づいたところがございます。

それで、29年度でございます。



我々新潟市まちづくり推進課いるのですけれども、河川管理であります信濃川下流河川事務所さんから、一括で占用をいただいています。新潟市がいただいたところをまた貸しをするということで、民間の方々、また、団体の方々にマネジメントをしてくれないかと公募しました。公募したところ、5者が「ちょっといいね」という感じで参加意向を出してくれたんですけれども、実際に事業

計画として応募していただいたのは、株式会社スノーピークさんだけということになっています。

ですので、新潟市のかわりに仕切ってねという部分ですから、新潟市と使用契約のみで、金額は発生していません。民間団体の方は、個別の出店者を呼んできたりするわけなので、そこは民・民の契約は発生しております。しかし、我々行政側には、そこについては全く線を切っているというところがございます。要は、河川の土地でどうぞ勝手に商売してくださいという関係にしています。その責任でそのイベントは市が一旦全部借りますので、市の中で完結できるような当然内容にしてくださいというのが、具体的な契約内容にはなっています。



### 公募型プロポーザル

|                   |     |
|-------------------|-----|
| 【審査委員】            |     |
| 信濃川やすらぎ堤利用調整協議会委員 | 6名  |
| ○有識者              | 1名  |
| ○新潟商工会議所          | 1名  |
| ○新潟市中央自治協議会       | 1名  |
| ○行政関係             | 2名  |
| 【参加事業者】           |     |
| 参加表明者             | 5団体 |
| 説明会参加事業者          | 10名 |
| 【選定施設使用者】         |     |
| ㈱スノーピーク 山井 太      |     |
| 新潟県三条市中野原456      |     |

### 【プロポーザルの視点】

「企画・創造」、「具体・実行」、  
「発展・将来」の3つの視点で審査

- 新潟市内・県内の企業
- 景観・デザインの配慮
- H28出店者との連携
- 高代橋周辺地区の魅力向上
- マネジメント計画
- 共有施設等の整備
- 魅力的なテナントの誘致
- 環境の美化(維持管理)
- 回遊性・賑わい創出
- 地元・地域との協力体制
- 安全性・災害時の対応

→ 条件  
重要

プロポーザルにつきましても、有識者、要するに市との契約を結ぶので、市だけが一方的に決めるというわけにはいきませんので、有識者6名、あと経済界の方、それから沿川の自治会の方、あと行政関係であります、その方で審査委員会をつくりまして、この右の点、プロポーザルの視点とございますが、企画力ですとか、それから実行力、将来性みたいな部分を大きなカテゴリーにしておきながら、まず第一に新潟の市内もしくは県内の企業にお願いしますよと。それは力がある県外の企業を持っていたところで、やはり地元にお金が落ちないということは問題なのかなという

ここで、とりあえず新潟市内・県内の企業に条件として付してございます。

それから、初年度やったあの、言い方は悪いですがけれども、雑多なというか、ごちゃごちゃした景観を少し配慮してくれる方が欲しいなど。あと、せっかく1年目、儲かるか儲うからわからないけれども、出てくれた出店者というのは、もしその方がまた出たいというのであれば、ぜひ使ってあげてよという出店者連携。あと、萬代橋というせっかくのロケーションがあるので、やはりそういうものの魅力を発信してねというところの魅力向上ということを主な条件にしています。

そのほか、マネジメントはどういうふうにしますかとか、共有施設どんな整備してくれますかとか、全部挙げた上で、参加表明は5名だったんですが、結局1社だけの公募という形になりまして、株式会社スノーピークさん、これ新潟県の三条市というところのアウトドアのメーカーになりますが、そこが手を挙げて契約になったというところでございます。

#### （株）スノーピークの提案内容（抜粋）



**水辺アウトドアラウンジ「やすらぎ堤」**

水都新潟の水辺を利用し、アウトドアと健康をテーマに、地域/人に愛され、全国に誇れるにぎわいある場所をつくる。

【果たす役割】

- ▶ アウトドアデザイン、しつらえて、やすらぎ堤を全国に誇るアウトドア型催事スペース、健康促進基地として利用を促進する。
- ▶ 信濃川の水辺、新潟の象徴とも云える萬代橋、地域出店者や企業、団体と人をつなぎ、地域のにぎわいに貢献する。
- ▶ アウトドアスペースであるやすらぎ堤を利用し、アウトドアと健康をテーマに、さまざまな体験を通じ、地域、企業、家族のコミュニティ形成に貢献する。
- ▶ 当社ネットワークを通じ、やすらぎ堤の価値を全国に配信する。

スノーピークさんです。ここににつきましては、やはり新潟の水辺を活用して、自分の得意分野であるアウトドア、それから健康をテーマに、地域に愛される全国に誇れる賑わいの場所をつくるというような決意のもとでのプレゼンでございました。

果たす役割として、スノーピークさんの果たす

役割は、やはりアウトドアのデザイン、しつらえ、それから自分たちが持っているネットワークで発信もできますよと。それから、信濃川水辺、それから萬代橋、地元の店舗・企業協力しながら何とかやっていきますというところの部分が認めてもらえたということになります。

#### （株）スノーピークの提案内容（抜粋）



スノーピークさんのコンセプトは、右岸については、背後に大規模な商業施設もありますので、食事や団らんを楽しむエリアということで、飲食ができるようなブースにしています。それから、左岸については、ヘルスゾーンということで、冒頭にお見せしました新潟の左岸というのは、新潟島と言われてますけれども、関屋分水路と日本海に挟まれたこういう島のような形になっていて、やすらぎ堤を一部使って1周してランニングを楽しむ方が結構いらっしゃるんですね。そういう方がいらっしゃる中で、横でわいわいがやがや飲んでいるというよりも、むしろそういう人たちがターゲットにしたような展開にしましょうということで、このヘルスゾーンと。何か健康のスムージーとか、プロテインの何かとかやったりとかしていますけれども、ちょっといまいちでしたけれどもね。というのを言っています。





## ミズベリング信濃川やすらぎ堤2017



- 店舗数 14店舗  
右岸(万代側)13店舗  
左岸(古町側)1店舗
- 出店期間  
7月1日(土)～10月1日(日)
- 内容  
オープンカフェ、バーベキュー、  
ビアガーデンなどの飲食店や  
フィットネス教室、各種イベント
- 利用者数(推計)  
7月:約13,000人  
8月:約12,600人  
9月:約 8,800人  
※前年比...1.15
- 売り上げ  
7月:約3,120万円  
8月:約2,820万円  
9月:約1,640万円  
※前年比...1.01

新潟市の直営から手が離れてスノーピークさんがやり始めたら、店が14になりました。期間も短く10月いっぱい、9月いっぱいになりました。カフェとバーベキュー、出ているのは一緒なんですけど、やはりちょっとイベント関係とか、フィットネスだとか、そういう各種イベントも回数や参加者も増え、利用者数は1.1倍ぐらになりました。7月は長雨でちょっと伸びなかったんですけども、結果的に新潟市が直営でやったよりも効果があったと。売り上げも当然スノーピークさん、前年度並みという形の売り上げがあったので、ここはまずまずなんじゃないのというのが1年目の評価でした。

これは主なイベントをやっている風景をスライドで紹介します。



◇37 6CC  
(SACO WORKOUT CAFE.  
と定期的に開催)

まず、ヨガです。何となく写真写りがいいので、何か女子がいっぱい集まっているみたいな感じがあるんですけども、実際にやっているのはやはり女性の方がほぼです。背後にランニングしている方が何しているのみたいな感じで参加というのがありますが、基本的には事前予約のヨガをやっ

ています。



今度、これは子供たちと親子でちょっと走り回ったり、体操をしたりということのキッズワークアウトというイベントです。



これは今度、雨上がりなんですけど、すごい汚れていますけれども、カヌー体験教室という形です。



◇親子向けアウトドア体験  
(新潟日報みらい大学サマーセッション)

これ、スノーピークさんが得意なグッチオープンという鉄釜みたいなものがあるんですけども、それを使った料理を子供たちに教えていきたいと思いますという講習をここでやっています。

次に、堤防の斜面にブルーシートで水を流して



◇キッズウォーターパーク

滑り台をつくって、子供たちをそこで遊ばせるといったキッズウォーターパークというものをやっています。



今度、これはマーケット、出店者の企画なんですけど、マーケットイベントということで、ここは多分ウクレレの教室だか、アンサンブルだかを体験しているという感じのイベントをやっています。



これはキャンドルをつくって、夜のしつらえのときに子供と一緒につくりましょうというキャンドルワークショップをやっていました。



これ、エンディングという形で、写真に写るといってみんな同じようなポーズをとるんですけども、いわゆる本来やっちゃいけない火を使うという、その河川の区域でね。すごいことなんですけれども、これはもう決して芝を傷めないということで鉄板だとかそういうものはスノーピークさん得意のツールを持ってきて、絶対監視するし、こういうところに消化器も置くので、とりあえずこういうしつらえをやらせてくれというたき火マ

ニアの方がいらっしゃるんでしょうね。こういうような焚き火ラウンジという形でたき火を開催して、これでグランドフィナーレというところが初年度でございました。



## ミズベリング信濃川やすらぎ堤2017

### 【行政の役割】

- ◇ インフラの整備(電源、給排水、園路拡幅、公衆トイレ)  
※「かわまちづくり計画」策定 **国も積極的に支援**
- ◇ 住民等への周知フォロー(チラシ配布、関係者説明)
- ◇ PRの支援(市広報紙・HPへの掲載、観光連携)

### 【使用契約者(民間事業者)の役割】

- ◇ 出店者の募集、運営管理
- ◇ 独自の情報発信(SNS等)
- ◇ イベントの開催、デザインの統一など

その中で、2017年やってきた中で、行政の役割というのがだんだん見えてきました。もうこの店舗にお願いするというツールは、餅は餅屋なので行政にそんなものはありませんから、もう行政はインフラ整備に割り切りました。それによって、行政はインフラ整備ということで、まず電源を広げましょう。給排水がなければ持ってきましょう。あと園路というのは、いわゆる天端の新潟市が公園区域として持っている園路の部分があるんですが、そこを拡幅したことによって、出店者が出やすい空間をつくってあげましょうと。これ園路ですね。あと、季節の間、300日やらそれだけで、常設のトイレもあるんですけども、どうしてもトイレが足りないんで、周りの方に迷惑かけていますから、公衆トイレも設置しましょうと。これ仮設です。ということで、あとかわまちづくり計画もつくりましたから、その中で国からも直接このミズベリングにも整備をしていただいているということをごここで改めて強調させていただきます。

次、市の役割、あと地域住民への周知フォローということで、公共事業としてやるには必ず地域住民への説明がいるものです。そこは民間企業と

言われてもどういうルール、運動していいかわからないということになりますので、ここは新潟市が橋渡しをして、こういうところの周知をしておりますし、また、あとPRも市で、当然今はもうSNS何とかというので得意な部分はあるんですが、逆に金のかからない新潟市の広報紙ですとか、ホームページですとか、それから観光パンフレットの中にこういうのを入れながら、何とか皆さん方の活動は応援しますよというのが、我々の行政の役割として線を切ってしまいました。

今度、民間の方については、やはりでこひこあるわけなので、出店者の募集、運営管理みたいなものをしてもらっていますし、あと独自でフェイスブックですとか、インスタなどで情報発信してもらっていますし、あと出店者の方の個別のイベントですとか、デザインの統一化などをしてもらっています。

**ミズベリング信濃川やすらぎ堤2017**

さらなる利用促進への支援策(H29~)  
◇ 園路拡張(出店ブースの設置)



これは先ほど言った園路拡張です。本当はこの半分ぐらいの園路だったものを、市街地側に広げて、今椅子を置いてありますけれども、椅子を取っ払うと、ここにちょっとした出店ぐらいとか出せるような感じになって、なおかつこの通路自体は歩くのに支障がないという感じのしつらえをしています。

**ミズベリング信濃川やすらぎ堤2017**

さらなる利用促進への支援策(H29~)  
◇ 排水溝整備(安全施設?)



今度これ、これは排水溝の整備という、実はぼつんとグレーチングがあってU字溝があるだけなんですよ。

これって、ここに出店が出たときに、どうしても給排水の管、パイプが園路を横断してしまいます。そうすると、どうしても山になってこうあるわけですね。引っかかって転ぶなんていう方もいらっしゃるだったので、それを収納できるように、新潟市はからのU字側溝とグレーチングをして、どうぞインフラの排水管、ここに入れてくださいと整備したのが、この設計です。これだけ頑張っているんですけども、今年はここに出店してくれたのは誰もいませんでした。そんなことばかりですよ。

**ミズベリング信濃川やすらぎ堤2017**

さらなる利用促進への支援策(H29~)

- ◇ 景観照明(「彩り蛍」)の設置
- ◇ 臨時 Free Wi-Fi の提供



今度、新潟市の支援その2です。これ、実はミズベリングの区間って600メートルあると言ったんですけども、600メートルのうちのほぼ5メートル間隔で、ソーラーで充電をできるLED5色のフットライトを置くんですね。これが、5色でいろいろな方向を向いていますので、こうやって歩いていくと、赤に見えたものが、ここに来るとちょっと青になったりとかって、点滅をしていきながら別な色になってくるという、何かそういうしつらえ像です。これ、「彩り蛍」なんていう商品にしていますけれども、これがずっとこういう感じずっと浴川に続いているということ、

ちょっと新潟市でさせてもらっています。これはソーラーパネルなので、通年です。

あと、やはりインバウンドの方いらっしゃいます。どんなメニューで何だか全然わからないと。確かに多言語表記のものを用意していれば一番いいんですけども、多言語も多言語ってどこぐらいのレベルまで対応していかと非常に悩みどころなんです、行政は。なので、いっそのことフリーWi-Fiを置いてしまいました。あとは、使いたい方が、大体もうスマートフォン持っていますので、通訳したり、交流をしたりという形で、安心してそこをできるように、フリーWi-Fi、これバッテリーが、バッテリーというか、ブースがトランクケースに置いているのを3つ置けば、多分ミズベリングエリアはフリーWi-Fiにできたというような事例をさせていただいています。いよいよ今年度になりました。

### ミズベリング信濃川やすらぎ堤2018



またスノーピークさんをお願いをしています。

### ミズベリング信濃川やすらぎ堤2018

#### 【変更点】スノーピークの独自の判断

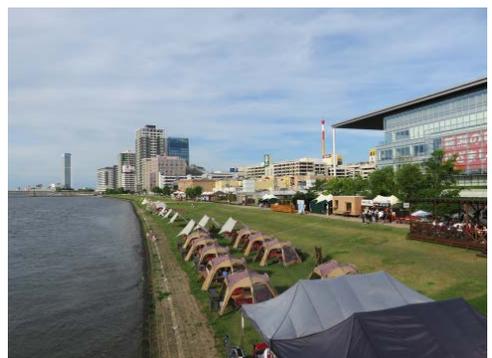
- ① 出店者の参加費を、売上歩合制から定額制に変更
- ② タープ、テーブルなど備品を出店者に提供し、設営や物品管理を任せました。
- ③ 県産の食材(茶豆や日本酒)を提供し、新潟らしさをさらにアピール!

その結果 → 出店者で創意工夫、組合組織の発足か?

スノーピークさん、初年度からの変更点、大きく3つあります。まず1点、最初は売り上げの8%という歩合をピンハネしていました。ただ、ピンハネしていたと言っても、当然スノーピークさんが全体のマネジメントをやるわけなので、やはりどうしてもそれはいりますよという話なんですけれども、この歩合制というのがレジの一元管理ができるわけでもない、個店の皆さんはどうしてもちょっと安めに売り上げましたと言ってしていたのが、ちょっとばれちゃって、出せということで、今年からは定額制、客席単価を決めて、各店舗希望する座席数に応じた「参加費」を毎月徴収する方式に変更しました。

それから、初年度は、スノーピークの職員が直接テントやタープを、毎回出したりをして、なおかつ警報が鳴ったときとか、大雨の警報が鳴る、洪水などが鳴るといえるときになると、30分以内に撤収しなきゃならない。その間、ずっとスノーピークが張りついていてもだめなので、出店者にもうお任せしようじゃないかというのが、この2番目です。

3番目、さらに、どこへ行っても焼き肉と何かバーベキューのにおいしかなしいというところで、やはり年寄りの方がちょっと離れてきまして、だったら枝豆とかないと。日本酒とか、そういうものをちょっとあの場に出すようにしようと。その結果、じゃあ出店者11社の人たちでも、何か俺らの独自の取り組みしようかなんていうところがちょっと芽生えてきたのが、主な変更点です。



これが今年バージョンですね。同じようなんですけれども、実は画面右なんです、ここで出店者が自らウッドデッキのテラスをつかったんですよ。これ、仮設なので、簡単な屋根もついていますので、ちょっとした雨なり、団体客はここで過ごせるんです。これが住箱と言われている、現場事務所みたいですが、これも住箱というので、これラーメン屋でした。団体とか使うタープなんですけれども、大体飲み放題でビールとか何とかというときに、定員さんがここを走ってきたりとか、我々が使っている側が走ってくるって、結構大変なんです。なので、実はここ、ビールサーバーがあるテントが1個あるんです。なので、ビールジョッキを持って行って、このテントのどこかへ行くと、ビールサーバーとか、ハイボールとかあ



るところを自分でガーッとやって、またこう帰ってくるというパターンにして、飲み放題コースというのを増やしていました。

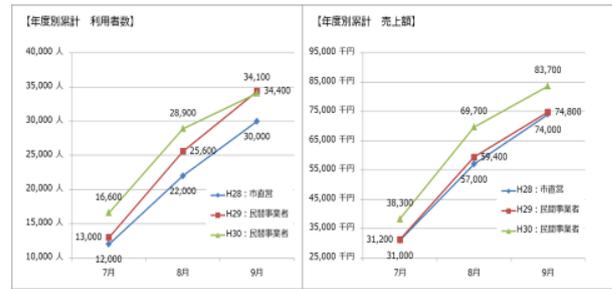
これは今度、出店者企画です。もう絵面はあれなんですけれども、いわゆる出店者の個店がここで結婚式をしてみたいと。という人たちもいたので、「おお、おもしろいじゃないか」という形、ここで結婚式をしていました。

これは今度、渦コンです。渦コンって、いわゆる婚活パーティーのことですね。



## ミズベリング信濃川やすらぎ堤2018

### 実績(H30. 7. 1~9. 30) 速報値



その結果、一番下、30年の表ですけれども、利用者数も、もう今年猛暑にもかかわらず、かなり利用も伸びましたし、9月に入ったこのところについてはちょっと台風の影響があったかなという形で、結局3万4,000人ぐらいを確保しましたし、利用者についても、8,000万超ぐらいですかね。8,500万ぐらいの売り上げがあったという形の速報が出ています。



## 今後の展開



今後の展開です。

直営で1年間やってみて、新潟市がだめだ、プロに任せようということにして、今2年が終わりました。2年が終わって、いよいよ来年3年目になってくるんですけれども、ちょっと新潟市の負担、関わり方も少なくしていきたいなど。最終的には、完全に民間主体でここをお任せできればというところのロードムービーじゃないけれども、始まったところでございます。



## 今後の展開

新潟港 開港150周年 平成31年1月1日

- ・ミズベリングの定着
- ・上流部への区域拡大

・港湾区域への事業展開



今、ミズベリング、この区域だけをやっているんですけれども、やはり水辺と言われる継続性と一体性を考えると、下流、これ今度港湾区域になるんですが、下流も上流も同じようなしつらえをしています。そんなところに拡大していく、皆さん方の機運が盛り上がりたという形なんです。この港のところについては、来年の1月で新潟市開港150周年になるということで、今年、結構港関係に賑わっていたんです。そんなのを含めまして、このミズベリング、ミズベリングという名前ではもうないかもしれませんが、水辺の賑わいというところで、ちょっとこちらの部分をやっていこうじゃないかというところが、今後の展開としてきました。



ここは、萬代橋よりも下流、この画面の後ろがもう海という形になっていますけれども、ここで社会実験として、当初サンセットカフェと私冒頭

に説明しました12年個人でやっているサンセットカフェがいよいよ港湾区域に進出をして、こういうふうになってやっています。



かつて港湾の緑地に、転落防止柵があるんですけれども、そこにLEDのチューブを全部縦に並べて、プログラム制御で文字をばらばらと動くような感じでできるというのを、今年ちょっとにぎやかにしてやってみました。これはたまたま「WELCOME NIIGATA」にしまして、プログラムなので、対岸からはちゃんと、反対の文字でまた流れることも可能ですし、この前新潟マラソンがあったんですが、そのときも「熱くなれ にいがた」みたいな感じで、いろいろなメッセージをここで送れるということを少し味を占めてしまいましたので、ちょっと来年そこで金儲けをしようかななんて思っています。結局、協賛金という形で誰かからお金をもらえれば、丸々市費



としてこのにぎやかをしなくても、みんなの資金、みんなの周りでやはりにぎやかしがなればみ

たいなところで頑張っています。

これが文字じゃないわけです。レインボーにすると、まあやっているわりには誰もいないんですよね。



個人的な感想になります。いわゆる水辺の活用、まちづくりも何でもそうですけれども、いわゆる背後の建物も違いますし、今向き合う河川とか港とかという立ち位置とか、幅とか、使い空間というのはどこもみんな違うんですよ。みんな違う中で、自分たちの使い方はこういうことがいいよねという、まずその〇〇スタイルというのをまず共有してみましょと。新潟の場合は、やはり町なかにあるというところで、駐車場も別にありませんし、トイレも点々しかないんですけども、けれどもここに来たらこういうことがあるよねという部分をもみんなで共有していけば、「いや、今度俺、あれもしたい、これもしたい」なんていうことは、幅が出なくなるのかなと思います。これはまだ新潟市やすらぎ堤スタイル、まだ共有できていません。そういうのが必要だとは思っていますが、まだそこまでは至っていません。

次に、2つ目になります。

これも結構大事なことで、市民の皆さんにとっては、ここの管理が国だとか、ここの管理は市だとか、そんなの関係ないんですよ。水際という観点から。であれば、そんなの別に何か、ここで何かをしたいという空間で、管理者によってあっち行

けこっち行けというのがないので、そんな部分はみんなの水辺だという共有をしていって、誰かが窓口なり、誰かが一本で、じゃとりあえずそこで話を聞きましょうみたいなところができる、いろいろなところ、ルートを使って話が進められるのかなと思います。

あともう1つ、3番目なんですけれども、これ結構大事だと思うんですけども、とりあえずやってみるんですよ。条例とか何とかなければ、とりあえず社会実験でも何でもいいので、とりあえずやってみるという心意気に賛同してもらえる、業界でもいいですし、仲間でもいいですし、先輩でもいいし、後輩でもいいんです。とにかく、ちょっとの距離でもいいんですが、やってみることが、やらないとわからないですし、やるための整理をしていくだけで、どんどん鮮度が悪くなるんです、こういうのは。

なので、やれるためには何があるかという部分を迅速に話をする、考えたほうが、やる側も多分楽しいと思いますし、という感じがします。

以上でございました。

これ、何かすごく賑わっているでしょう。これ、今年行われた開港150周年のイベントでブルーインパルスが来て、たまたま人が集まったようなので、普段から見るとこんなに人がいるわけじゃないですよ。

すみません。時間ちょっと延びちゃったかもしれませんが、以上で紹介を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。(拍手)



## 歴史解説 「川湊 石巻の歴史」

石巻市教育委員会複合文化施設開設準備室室長  
石巻専修大学非常勤講師

佐々木 淳氏



どうも、こんにちは。佐々木です。よろしくお願  
いします。

私ね、肩パット入っている服というのはあまり  
着たくないの、ほとんどの登壇者がちゃんとス  
ーツとかブレザー着ているんですけども、ちょ  
っとこういう格好で勘弁してください。ネクタイ  
だけはしてきましたので、よろしくお願ひしたい  
と思います。

では、30分ほど、14時35分までというこ  
とで、腕時計持っていないので、ここにiPad  
を置いて、時計を見ながらちょっとお話ししてみ  
たいと思います。

いつなのかという、ちょっとよくわからないと。  
遅くとも平泉藤原氏の時代、11世紀くらいから  
は恐らく湊としては機能していただろうというこ  
とです。

ただし、江戸時代の初めに北上川の改修があり  
まして、その結果、物資の集散地として大きく発  
展したと考えられるということです。

この北上川改修によって発展したという理由は、  
流路が安定する。上流との水運の便が開ける。そ  
れから、流域の開発が進み、大量の米穀の流通が  
始まったというようなことが要因として考えられ  
るということです。

これから短い時間ですけれども、古代から湊の  
歴史と北上川改修をちょっと探ってみよう。そ  
れから、石巻は川湊というテーマですけれども、  
海の湊でございまして、私実は専門が江戸時代  
の歴史の研究でございまして、ちょっと江戸と  
の航路につきまして、時間がありましたら、まあ  
まあ最新の研究結果をもとに考えてみるというこ  
とでやりたいと思います。

### 川湊石巻の歴史

佐々木 淳

「川湊石巻の歴史」というテーマです。

#### はじめに

- 石巻は、遅くとも平泉藤原氏の時代から川湊として機能していた。
- ただし、江戸時代初めの北上川改修の結果、物資の集散地として**大きく発展した**と考えられる
- 北上川改修によって、流路が安定することによって上流部との水運の便が開けたこと、流域の開発が進み大量の米穀の流通が始まったことなどが要因として考えられる
- 古代からの湊の歴史と北上川改修を探ってみる
- 江戸との航路を最新の研究結果をもとに考えてみる

はじめにということで、何項目か書きましたけれども、石巻が湊として機能し出したというのは

#### 1 古代の川湊

- 古墳時代の新金沼遺跡から東海系土器と北海道系の土器が出土している＝南北の交流拠点だった？
- 桃生城は、「又於陸奥国牡鹿郡。跨大河凌峻嶺。作桃生柵」とあり付近に大河が流れていたことがわかる
- 遅くとも平泉藤原氏の時代までには港として機能し始めていた
- 水沼窯跡の存在
- 水沼窯跡とは、12世紀前半代に渥美半島の工人が石巻にやってくるまで築いた窯。その製品は平泉に供給された。大型の壺などが出土している。平泉へは川船で運ばれたと考えられている。
- 舟運を抜きに平泉の繁栄は考えられない
- 平泉の外港として機能していた
- 可能性としては東アジア各地とつながっていた可能性もある



ジア全体、中国とか、あるいはそのころだと渤海とか、シベリアというか、今の北朝鮮あたりの沿岸部とかという、あの辺からもものが来ています。朝鮮半島からも来ています。あるいは、螺鈿とかという、貝のきれいなやつを柱に張ってありますよね。あれなんか南海ですから、南の海から来ていますから、ということは大げさに言えば世界中からもものが来る。そのものって何で運ばれたのかという、当然船です。平泉に大きなものを運ぶって、奥羽山脈越えますか。越えるの大変ですよ。じゃあ、今度例えば大船渡とか釜石あたりから行きますかといったら、北上山地越えるの大変ですよ。であれば、やはり石巻から船で運ぶのが一番楽ということになるわけです。

というような考え方で、平泉の繁栄というのは、石巻を外港として、発展していったんだろうということでもあります。可能性としては、東アジア各地と石巻がつながっていたというふうに考えられます。ただ、中継で来るんだとは思いますが。

平泉藤原氏というのは、いわゆる日本史を分けたときに、古代と言われる奈良平安時代の終わりから、中世と言われる鎌倉時代へのちょうど過渡期なんですよ。古代と言ってもいいし、中世と言ってもいいような時代なんです。中世と言われる鎌倉時代から戦国時代までのお話をしようと思ったんですが、歴史的な史料というのが少ないんですよ。

## 2 中世の石巻

- 葛西氏の所領となった
- 葛西清重が与えられたのは5郡2保
- 4郡2保は平泉周辺であった
- 牡鹿郡のみ飛び地的に与えられた
- 平泉藤原氏時代の外港としての石巻を押さえる意味か
- 南北朝時代に暦応元年＝延元3年(1338)に伊勢から東国に向かった南朝方の船が途中暴風に遭った際に、行方不明になった船が「宇多歌牡鹿」に着いていないかという北島親房の書状が残っている。この場合の「牡鹿」が牡鹿津を指していることは間違いないと考えられる。
- 戦国時代までに山内首藤氏を滅ぼすなど「葛西領国」といえる一円的な領域を形成した
- 北上川がその物資流通の大動脈であったことは間違いないであろう
- ただし、史料が残っておらず、詳細は不明
- 豊臣秀吉による天正18年(1590)の奥羽仕置及び翌年の奥羽再仕置により旧葛西・大崎領は伊達政宗の領知となった

わかる範囲内でちょっとだけお話ししますと、葛西氏の所領となったと。石巻市民だと大体わかると思うんですが、その初代に当たる葛西清重ってどこどこもらったのと言われて、5郡2保というふうになっています。これは鎌倉時代の文献に出てくるので間違いはないんですが、その5郡2保ってどこなのよという、その5郡のうち4郡2保というのは平泉の周辺です。牡鹿郡だけ飛び地的に与えられています。平泉藤原氏時代の外港としての石巻を押さえる狙いかということです。



これは一関市の博物館の図録から持ってきたやつなんですけれども、ここに平泉の保って書いてあるんですが、この辺が平泉で、あとはこの黄色く塗ったところが葛西氏の最初にもらった所領で、それと同時にもらったのがこの牡鹿郡ということなので、平泉をきちっと押さえるためには、この水運でつながっている石巻、海運でつながっている石巻というのを押さえないといけないということになるんだと思います。

葛西氏というのは、今の東京の江戸川区、それから葛飾区あたりを本拠地にした御家人として、このころの関東の沿岸の御家人って、結構船を使う人が多かったんですよ。なので、葛西氏も恐らく船で往復していたということもかなりあったんだろうということが考えられます。ただ、あまりわからないんですよ。残ってなくて。石巻のことが。葛西氏のことが出てくるんですけども、よくわからないということです。

鎌倉時代をこんな一瞬で流しまして、南北朝時代、後醍醐天皇とか足利尊氏とか、そういう人が活躍する時代ですけれども、暦応元年、南朝年号で言うと延元3年、1338年に、伊勢国から東北に向かった南朝方の船があったんですね。それが途中暴風雨に遭ったんです。伊勢に吹き戻されちゃうんですけれども、ほとんどの船は。行方不明になったときに、北畠親房という南朝方の有名人がいるんですが、彼の書状が残っていて、どこに着いたのかわからないけれども、「宇多歟」、これ「か」読むんですけれども、「宇多歟牡鹿」に着いていないかというようなことが書いてあるんですね。宇多と言えば多分相馬、牡鹿というのは恐らく石巻であろうというふうに言われています。牡鹿湊を指しているということです。

なので、平泉藤原氏の時代から外港として恐らく川の港、海の港として機能していたということが、北畠親房の知識の中にあって、北畠親房が行方不明になった船が「宇多歟牡鹿」に着いていないかなという手紙を出したというようなことです。

平泉周辺との間は怎么样了かということ、桃生は山内首藤という人がもらって、登米は登米氏というのがもらって、本吉荘というのは多分よくわからないんですが、恐らく熊谷、千葉、その辺がもらっているんだろうというふうに思っています。なので、石巻は飛び地なんですよ。でも、葛西氏頑張って、この辺全部やっつけて、あるいは服属させて、こういう広い葛西の領国を形成したということになっています。

それから、ちなみに牡鹿郡といっても、昔は半島は入らない。こちらは遠い島って、遠島と言って、ちょっと別の区画になっていたようです。このところは鎌倉時代は北条家の得宗家と言うんですけれども、こちらの所領になっていたんだろうということです。なので、鎌倉幕府が滅んだ後、隣を持っている葛西氏が手に入れた可能性が高い

とか、そんな感じになっているんですよ。葛西氏というのは、戦国時代までこの北上川を中心とした広い領国、それからこちら側のリアスのほうの海でつながった大きな領国を持っていたということです。

その葛西氏の広い領国なんですが、北上川がその物資の大動脈だったというのは、多分間違いはないと思うんですが、これも史料って歴史を研究するときに絶対必要な、字で書いてある文献が残っていないくて、ちょっとわからないということですが、それは間違いはないだろうということです。

葛西氏、その後どうなったのかということ、豊臣秀吉が東北、奥州と羽州ですね。陸奥国と出羽国を仕置ってこの場合は罰するという意味じゃなくて、俺の時代はこういうふうにするというような政治的な処置のことですけれども、天正18年、1590年の奥羽仕置と、その翌年の奥羽再仕置によりまして、葛西氏の領地と、あと大崎氏って古川のほうの領地は、伊達政宗の領知になりました。この場合、領知ということで、これ間違いじゃないですからね。領知ということです。

### 3 近世の北上川舟運

- 江戸時代初めの北上川改修の結果、流路が安定することによって上流部との水運の便が開けたこと、流域の開発が進み大量の米穀の流通が始まったことにより河川舟運と東廻り航路の結節点となり、物資の集散地として**大きく発展した**と考えられる
- 北上川の改修等に伴う流路の変遷は諸説あるが、『河北町誌下』の説が、唯一、学術的な根拠を示して考察しており、その説に従うべき。

ということで、伊達政宗の領知になった。この17世紀ですね。先ほど1591年に伊達政宗の領知になったと言いましたけれども、16世紀が終わって17世紀になるといったときに、全国的に何が起きたのかということ、大きな河川を改修して新田を開発するということをやりました。有名

なのは、関東の利根川を銚子に流す。それまで江戸湾に流れていたのを銚子に流すというのを伊奈備前忠次というのがやるんですが、仙台藩では川村孫兵衛がやったと言われる北上川の改修をするということになります。その結果、最初冒頭でも言いましたけれども、河川、北上川の河川舟運と東回りの航路の結節点となり、物資の集散地として大きく発展したということになると思います。きょうこの話メインじゃなかったんですが、ちょっとだけお話ししますと、そちらの廊下のところにパネルが飾ってあって、私のこれからお話しするのと大分中身が違うし、あと資料で所長さんの資料とも大分違うのですが、私の考えている北上川の河川改修史をちょっとやってみようかと思うんですが、実は私のオリジナルではなくて、石巻の北側のほう、合併前の河北町というところがあるんですが、その「河北町誌下」に書いてあるという説が、これがちゃんと資料を出している。学術的な根拠を出しているということで、その説に従うべきだということです。決して私が考えた単純なオリジナルではないということだけはちょっと理解しててください。

北上川の改修に関する諸説というのがありまし

#### 4 北上川改修にかかる諸説

- 推定の流路と改修について
  - ・北上川古今沿革調
  - ・宮城県史 8
  - ・石巻の歴史 6
  - ・河北町誌 下
- それぞれの見解を検討してみる

て、昔々、明治時代ですけれども「北上川古今沿革調」、これは戦後すぐぐらいの「宮城県史」、それからこれは平成になってすぐぐらいの「石巻の歴史」、同じころ、それよりちょっと「石巻の歴史」より前

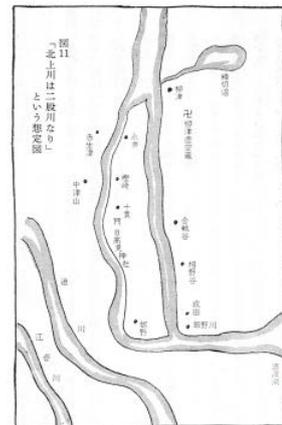
かな、「河北町誌下」と、この4つそれぞれの見解を見てみます。

#### (1) 北上川古今沿革調

- 現登米市中田町浅水から迫町森方向に流れ、迫川に合流していた
  - 伊達(白石)相模宗直が、迫川への流路を締め切り、柳津から飯野川へ流し、迫川へ相野谷で合流させた
  - 急流となったため、舟運が不便となり川幅が狭く、水害が多発
  - 柳津を締め切り、猪岡短台地内で迫川と合流させた
  - 川村孫兵衛が鹿又以南の原野を掘削し、真野川に合流させ石巻と湊村の間に流して海に注がせた
- 北上川河口は古くは追波河口のみ?
  - 石巻へは真野川のみが流れていた?

「北上川古今沿革調」というのは、登米市中田町浅水から迫町森方面に云々ということで、白石ですけれども、相模宗直が迫川への流路を締め切ると、柳津から飯野川へ流し、迫川へ相野谷で合流させたと。急流となったため、舟運が不便となり、川幅が狭く、水害が多発ということで、柳津を締め切って、猪岡短台地内でどうのこうのというふうになっていたということで、これからすると、北上川河口というのは、古くは追波河口しかなかったと。石巻は真野川だけ流れていたのというようなことになっています。

#### (2) 宮城県史 8



「宮城県史8」というのも、ちょっと時間が余りないので細かいことは言いませんけれども、石巻には北上川というのは流れていなかったというような話です。

これが宮城県史に載っていた図ですけれども、

こんな感じでこう流れていて、これが追波河口で、こちらが多分石巻河口だと思うんです。

### (3) 石巻の歴史6

- 二股川が現在の北上川流路に近い形で流れていた
- この二股川に迫川と北上川が上流で合流した流れが合流して、石巻と追波へ流れていた。
- 上流での北上川と迫川の合流をやめて、北上川は二股川に合流させた
- 柳津～飯野川間の流路を締め切った
- 江合川を北上川に合流させた
- 鹿又～石巻間の流路を整理統合した

「石巻の歴史6」というのは、二股川という川が北上川流路に近い形で流れていて、二股川に迫川と北上川が上流で合流した流れが合流して石巻と追波に流れていた云々というようなことが書いてあって、柳津～飯野川の流路を締め切ったと。江合川を北上川に合流させた。鹿又～石巻間の流路を整理統合したとなる。



(3) 石巻の歴史6



(3) 石巻の歴史6



(3) 石巻の歴史6

では、何かもともと流れていて、北上川というのはこう来ていて、こちら側に二股川というのがこう流れていたというような形です。

それが、江戸時代初めにこういう感じで、この二股川というのがここから流れていたのが、北上川と合流してこう流れたというふうになっているということです。

### (4) 河北町誌下

- 柳津～飯野川間の流路は古代～近世では流れていなかった
- 終末期古墳があった
- 柳津の旧町地に中世の板碑があった
- 成田足軽が慶長年間に居住していた
- 慶長年間の開墾碑の存在
- 松尾芭蕉が見た「心細き長沼＝合戦谷沼」は河跡湖ではなく、農業用水として作られた堤(つつみ)で、年1回「沼さらい」をしていた
- 鹿又＝川の股ではないか
- 鹿又以南は航空写真が示す旧河道を流れていた
- 川村孫兵衛の工事は、鹿又以南の流路の付け替え

「河北町誌下」ですけれども、柳津と飯野川の流路は古代～近世では流れていなかったと。これが一番重要な話なんですね。何でそうなのかというと、その今の北上川が流れているところのすぐそばに終末期古墳があったということで、もしそこが長期間川が流れていれば、ちょっとした増水のとときにそんな古墳なんて流されちゃっているよねということです。それから、柳津、実は今の柳津の町ってすごく新しく、明治から昭和にかけての河川改修のときに移転したんですよ。その前の柳津の町というのは、今北上川がちょうど二股に分かれるところの川の底になっているんですね。そのところに室町時代の板碑が多分原位置を保って発掘されています。それから、もうちょっとこれ飯野川のほうですけれども、成田足軽というのが慶長年間に今川の底になっているあたりに住んでいたとか、そのときの開墾碑があったとか、あと松尾芭蕉が見た「心細き長沼」って「合戦谷沼」と言うんですけれども、これは川の跡の湖じゃなくて、河跡湖ではなくて、農業用水としてつくられた堤で、年1回泥さらいをしていたと。抜くと。もともとの自然の川だと、なかなかこうはいかないということです。鹿又というのは川の股という意味じゃないかということです。

鹿又以南は、航空写真が示す河道を流れていたということで、川村孫兵衛の工事は鹿又以南の流路の付け替えではないかということです。

鹿又地区の旧河道の航空写真



上: 1947年米軍撮影航空写真(国土地理院ホームページから)  
左: 市ホームページ地図情報システム

この鹿又以南の流路の付け替えというんですけれども、国土地理院のホームページに、1947年にこの辺は米軍が航空写真撮るんです。そうすると、きれいに旧河道が見えるんです。これが前の市のホームページの地図システムを頑張ってコピーして私がつくったやつなんですけど、こんな感じでこう流れているんですね。ここから先がちょっと不明瞭なんですけれども、きれいに流れていて、川がある程度の期間流れると、どうしても洪水とかで自然堤防ができるということで、ここに集落がのるんですよね。だから、今でも地図を見ると旧河道というのは見当がつくんです。なので、川村孫兵衛というのは、ここを多分両方流れていて、こちらを締め切ってここだけにしたんじゃないかとか、そんなイメージだということです。

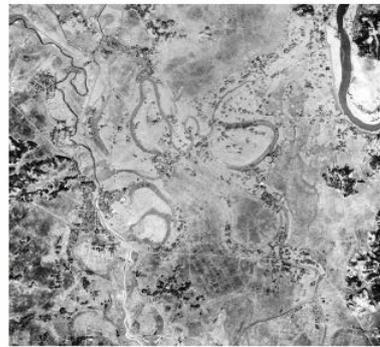
(5) 佐々木が想定する北上川改修史



改修前の流路(近世初頭の流路)  
各地に低湿地が広がり、一応の流路はあったものの増水などで、容易に氾濫し、流路は一定していなかったと考えられる。

私がどういうふう考えているのかというと、昔はメインの流れというのはちょっと実線で書いて、今とそんなに極端に変わっていないだろうと。この登米市の中田町あたりというのはぐちゃぐちゃの低湿地だったんだらうなど。それから、鹿又あたりというのもぐちゃぐちゃの低湿地だったんだらうというふうに考えています。ほかのところも大体低湿地と山だったんだらうと。やはりここは流れていなかったんだらうということです。

(5) 佐々木が想定する北上川改修史



登米市中田地区の1947年の航空写真  
北上川と迫川の間には蛇行した旧河道が多数見える。(国土地理院ホームページから)

登米市中田付近のやはり米軍写真を見ると、これが北上川なんです。この蛇行しているのは、これが迫川ですけども、その間に旧河道がぐちゃぐちゃにいっぱいあるんですよ。本当にすごくこういうところもこう流れている。ここにもあるというような感じで、迫川もかなりぐずぐずに流れていますけれども、そうすると古代～中世というのは、この部分というのは、やはりもうなかなか治水できないということで、恐らく江戸時代になってこの辺が相模土手できちんと締め切って、迫川もある程度流路が安定すれば、この辺が低湿地であってもある程度開発できるようになるということと、この辺の北上川が流路が安定するということです。

(5) 佐々木が想定する北上川改修史



石巻市桃生地区の1967年(左)・1947年(右)の航空写真  
長期間流れた旧河道は見えない。これによって『宮城県史』の説は否定される。(国土地理院ホームページから)

これが桃生付近なんですけれども、宮城県史はここをこう流れて行って、ここをこう流れてこうあったんじゃないかというんですけれども、どうもこの航空写真を見ても、自然堤防もないし、古い河道の跡もないということで、恐らく今と余り変わらない河道を流れていた可能性が高いのかなというふうに私は考えています。

(5) 佐々木が想定する北上川改修史



国土地理院の1967年の航空写真  
1947年の写真と同様に旧河道がくっきり見える(国土地理院ホームページから)

これが先ほどの鹿又あたりですけれども、これは1967年、20年後の写真ですけれども、やはり同じように見えるということです。ここはいわゆる蛇田ニュータウンとか、こういうところが開発になっているのを示したかっただけです。

(5) 佐々木が想定する北上川改修史



改修後の流路(近世の流路)  
改修は、新河道の掘削よりも、堤防の整備や流路の絞り込みであったと考えられる。(流路を締め切る工事は比較的簡単に、栗石を投げ込み土台を作っていくことにより、近世初期の技術で十分であった)  
その結果、低湿地が利用可能な土地となった。

ということで、江戸時代は絵図載っていますけれども、仙台市博物館で持っている、こんな感じで大体流れていたということです。

それで、掘るって大変なんですよ。実は。埋められて割と楽なんです。埋めるというのはどうやるのかというと、栗石とかこの辺だとぐり石と言いますけれども、それを投げ込んで土台をつかって、あと土で埋めていくということなので、多分この江合川がこう昔は今の上流だったということ、ここを締め切る。それから、ここをこう流れていたのを締め切る。あと、ここも締め切るというようなことをやったのが、川村孫兵衛だろうということです。

(5) 佐々木が想定する北上川改修史



現在の流路  
明治から昭和初年にかけての改修で、柳津、飯野川間の流路が開削され、岩手県からの水は多くは遠波河口に流されることとなり、石巻河口へは、追川、江合川の水が流れることとなった。  
追川も、直線的な放水路が作られた。

これが現代ということです。なので、ここは明治から昭和にかけて掘ったところですよ。

(5) 佐々木が想定する北上川改修史

- 改修は、**新河道の掘削よりも、堤防の整備や流路の絞り込み**であったと考えられる。
- その結果、低湿地が利用可能な土地となった。特に堤防(川除土手)の整備により流路が確定し、洪水(氾濫)が、少なくなり、新田開発が可能となった。
- 中世の集落は、扇状地などが多く、沖積地の利用は少なかった。
- 北上川改修の結果、仙台藩の旧葛西・大崎領で大開発が始まった。
- また、舟運の便が整備された。(川岸が整備されたことにより、人馬での曳舟が可能となり、遊航が楽になった)

ということで、私はどういうふうに考えているかというと、改修というのは、新河道の掘削よりも、堤防の整備とか流路の絞り込みであったということです。その結果、低湿地が利用可能な土地になったということで、氾濫、洪水が少なくなっ

て新田開発が可能となりました。

それ以前、戦国時代までは、扇状地とかという山に近いあたりがいい場所だったんです。沖積地の利用というのは少なかったということで、北上川改修の結果、仙台藩の旧葛西・大崎領で大開発が始まったと。これは全国的な傾向なんですけれどもね。

あと、舟運の便が整備されたということで、川岸が整備されたことにより、人馬での曳舟が可能となって、遡航が楽になった。川をさかのぼるって、どうやってさかのぼるのかというと、こうやって漕いで上るとか、川にさおを差して上るというのは、すごく大変なんです。追い風が吹いていけば、何とかなるんですけども、そうじゃないときはどうするのかというと、船にロープかけて人とか馬で川岸から引っ張るんです。それが大分楽になったというようなことですね。

### 5 川村孫兵衛

- 川村孫兵衛とは？
- 旧毛利家家臣で慶長年中(16世紀末)に伊達家の家臣となる
- 慶安元年(1648)に74歳(教元年)で死去。天正3年(1575)生まれ
- 諱(いみな)は、重吉
- 近世の系図類では、鉾山・堤防普請などによる新田開発・塩田開発に功があったと記されている
- 伊達政宗に召抱えられるとき、領地ではなく荒れ地をいただければ、それを開発して耕地とし、自分の知行地としたいと言上し、実際に多くの新田を開発している

あと5分になっちゃったので、川村孫兵衛、いろいろな説がありますけれども、慶安元年に74歳で死んでいるので、逆算すると1575年生まれかなというようなことになっていて、近世の系図類では、鉾山・堤防普請などによる新田開発・塩田開発に功があったというふうに記されております。伊達政宗に召し抱えられるときに、領地でなく荒れ地をいただければ、それを開発して耕地として自分の知行地にしたいということで、すごい新田開発をしています。

500石くれると言われたんです。なので、

自分の跡取りの娘婿分の500石分とって、もっといっぱい開発した分は、別の娘、もう2人いるんですが、そちらの婿さんたちに分けたということです。

### 5 川村孫兵衛

- 川村孫兵衛が北上川改修に従事したということは、従来伝承のみで、当時の資料はないとされてきた
- 『石巻の歴史 6』554頁  
平成4年(1992)刊行  
「川村孫兵衛重吉の工事に関する資・史料は皆無であり不明の点が多い。仙台藩正史の『治家記録』にも記載がない」
- 昭和56年(1981)刊行の『仙台藩重臣石母田家文書』に川村孫兵衛が「川(■除カ)普請奉行」であった史料が存在



川村孫兵衛が北上川改修に従事したというのは、ずっと伝承だと言われていたんです。平成になっても、川村孫兵衛重吉の云々というのは記録がないとかあるんですが、実はもうとっくの昔に刊行してあるやつに、川村孫兵衛が普請奉行であったという史料があるということです。

### 5 川村孫兵衛が川(■除カ)普請奉行であった史料

為御意申入候  
 十五浜之御百姓田  
 地持不申候付而桃  
 生之内針岡谷地  
 上意御造作を以  
 新田切起被預置  
 候就其川除并切起  
 彼是普請御人足  
 入候由村田吉介大友  
 平左衛門小嶋源蔵  
 申付候生■  
 者共費用取無油  
 断罷出候様ニ可申  
 付候由 御意候川  
 ■除カ御普請御奉行六  
 川村孫兵衛被仰付  
 候右之通相心得可被  
 申候恐々謹言  
 中嶋監物丞  
 霜月十九日  
 石母田大膳亮  
 宗頼(花押)  
 高城外記殿  
 加藤善右衛門殿  
 御宿所

大意  
 御意(伊達政宗の意)向として申し入れる。十五浜の御百姓は田地を持っていないので、桃生のうち針岡谷地に上意の御造作をもつて新田を切起させ、預け置くことになつた。河川改修と切り起しに人足が必要である旨を村田吉介が申すので、桃生(文字不明)の者たちに費用を取つて油断なく罷り出るようにつけるようにとの御意である。  
 河川改修の普請奉行には川村孫兵衛が仰せつけられたので、そのように心得るようになつた。

これは旧河北の針岡というところを開発したときに、河川改修の普請奉行には川村孫兵衛が仰せつけられたのでという、ここに「川除」、ちょっとここが虫食いで読めなかったんです。川除普請奉行には川村孫兵衛が仰せつけられたというふうに書いてあります。これね、許可取っていなかったもので、きょう写真載せられませんでした。

## 5 川村孫兵衛

(ヤブー地図情報から)



針岡というと、こういうところだね。ここ追波河口です。十五浜というのは、雄勝。ちょっとこの辺も十五浜だったなという気がします。

### 5 川村孫兵衛

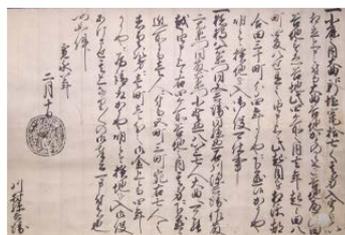
- 十五浜(雄勝)の「御百姓」が田地を持っていないので、針岡(旧河北)に新田を開発させなさいという指令
- その際に、川除(河川改修)の普請奉行に川村孫兵衛が任命されたという内容
- 新田開発に伴う河川改修であり、針岡は追波河口近くに存在
- 年代は大塚徳郎氏は寛永元年(1624)と推定(この推定が正しいかどうかは、確認していないが、近世初期の史料であることは間違いない)
- 最小限度、川村孫兵衛が追波河口側の新田開発に伴う河川改修の奉行であったことを示す内容

### 5 川村孫兵衛が川■(除カ)普請奉行であった史料

- おそらく、谷地を開発するために、川の氾濫から新田を守る堤防(川除土手)を造ったものと推測される
- この史料からは、新田開発のための河川改修のみの普請奉行であったとも読み取れる
- しかし、この新田開発に関して河川改修の普請奉行に任命されたということは、他の場合の河川改修の際にも奉行に任命された可能性が高いと推定される
- 以上から、川村孫兵衛が、北上川改修を行ったという伝承そのものは、正しいと推定される
- なお、川村孫兵衛が北上川改修に従事したのは元和・寛永の頃であり、40代前半のことである

### 5 川村孫兵衛

- 川村孫兵衛の最大の功績は、やはり新田開発



川村孫兵衛宛伊達政宗黒印状(毛利コレクション)  
伊達政宗から川村孫兵衛に宛てたもので、大曲に新しい製塩釜を取り立てること、蛇田などの谷地の開発を許可する。猿狩八右衛門などの谷地開発を指導するように、という内容

ということで、これが先ほどの史料です。大体寛永元年ごろの史料とされています。

あと、川村孫兵衛が伊達政宗からもらったやつがこれです。

## 6 北上川水運

- 基本は盛岡～石巻
- 黒沢尻(現北上市)が重要拠点
- 所要所に「河岸(かし)」と呼ばれる川湊があった
- 盛岡～黒沢尻(約50km)は「小繰舟」と呼ばれる100俵積みが主力
- 黒沢尻～石巻(約120km)は「艀」と呼ばれる350俵積みが主力
- 石巻へは米・大豆など農産物がほとんど
- 黒沢尻～石巻は、5～7日かかった場合が多かった

北上川水運というのはどうだったのかというと、盛岡、黒沢尻は小繰舟という小さい舟で、黒沢尻～石巻約120キロぐらいなんですけど、「艀(ひらた)」と呼ばれる350俵積みが主力で運ばれていました。石巻には、大体米とか大豆とか農産物がほとんどです。黒沢尻～石巻は、3日とかというふうな史料もあるんですが、でもほとんどは5日から7日です。意外にかかっています。120キロ走る。やはり途中で水量が多いときだとすいすいなんですけど、水量が少ないと、途中ではしけを用意しておいて、ちょっと荷物を移して喫水軽くして越えていくと。そういうようなこともやっていったようです。

## 6 北上川水運

(石巻住吉での荷役の様子)



あと、これは石巻の住吉に米蔵あったんですね。今の住吉小学校とかあの辺ですけれども、こんな感じで舟をつけて舟に板を渡して荷物担いで一旦こういうところに置いて、それから蔵に納めたんだらうと。何で一旦置くのかというと、恐らくここで検査したんだと思います。

## 7 江戸廻米の開始

- 年貢米及び買米(農民の余剰米を半強制的に藩が買い取ったもの)、大豆などを江戸に送って換金
- 仙台藩最大の財源
- 最初は、江戸屋敷などで必要な米穀を運んだものと推定され、その後、売却用の米穀を運ぶようになった。
- 17世紀初頭には江戸へ米を運んでいる史料(元和6年(1620)今の岩手県水沢から江戸までの米通判)
- 石巻への「御米蔵」の設置は元和8年(1622)
- 以後、江戸廻米が本格化する

## 7 江戸廻米の開始

- 仙台藩以外の南部・八戸・一関各藩も石巻を経由して行っていた(八戸藩は飛び地が北上川流域にあった)
- また、登米屋敷の記載も石巻絵図にあり、仙台藩の有力家臣も行っていた

それから、江戸廻米の開始というのが、あと2分あるのでお話ししたいと思います。

年貢米と買米って、農民の余剰米を半強制的に藩が買い取ったということで、それを江戸に送って換金すると。これが仙台藩最大の財源です。最初は江戸屋敷なんかで必要な米穀を運んだと。その後、売却用の米穀を運ぶようになったと。要するに、江戸がものすごい発展してきたので、そこに米持って行って売るといのが、非常にいい商売になったということです。1620年の岩手県の水沢から江戸間での米通判というのが史料に残る一番古いものです。これに対応する史料が、実は千葉の銚子に残ってしまっていて、これが2月なので、4月かそこの仙台藩の米がどうのこうのという史料が千葉の銚子に残されているので、恐らくこのとき千葉の銚子経由で、銚子といっても今の本当の銚子の中心部じゃなくて、そこから数キロ内陸部の高田というところの人たちが運んだというふうに考えられるということです。

石巻を出航すると、よく最初那珂湊に行っ

それから銚子に行って、それから江戸に直航するようになった。船が小さかったので、だんだん船が大きくなって江戸に行くようになったというんですけれども、どうもそうでもないでしょうということが最近の説です。あと、ここに潮来とわざわざ書いたのはなぜかという、実は潮来が海の港だったんです。江戸時代の初めのころは。この北浦とか霞ヶ浦とか、浪逆浦というところがあるんですが、銚子河口から入るといのは、実はほとんどこの辺浦とつくぐらいなので、海だったんですね、実質。

内湾だったんですよ。なので、潮来が海の湊で、ここに仙台屋敷がずっとありました。江戸時代通じて。

ということで、石巻を出て潮来に入る。那珂湊に入る。利根川の土砂で潮来のあたりが埋まっちゃってから銚子が発達すると。それから、浦賀経由で江戸に入る。いろいろな航路があったんです。



これが今の地図ですけれども、ここが関宿というこういうふうなんですけれども、飛ばしてください。

ということで、実際に那珂湊に着いたか、銚子に着いたか、浦賀経由で江戸に行ったかというのは、そのときの状況次第だったということです。

## 8 江戸廻米の航路

### ○佐々木の結論

- 近世前期(17世紀)は、江戸への物資輸送は、渡辺英夫説どおり潮来が中心で、那珂湊が状況次第で入港する港として機能した。
- その後、江戸直航も合理性が出てきて、直航も行われるようになった。
- 潮来までの航路(利根川・浪逆浦)が堆積物によって浅くなり、海船の直航が困難になると、銚子が代替となった。
- 近世の廻船は、たとえば冬の北西の季節風が吹くときは沖合を航行することは吹き流される危険があり、沿岸を航行したため、那珂湊廻着が多かった、夏は南東の風が吹くが多かったため、座礁の危険があるので、沖合を航行したので、江戸直航が多かったなど、季節や天候などに航行を左右された。

## 8 江戸廻米の航路

- 石巻を出発した廻船が、那珂湊・潮来(銚子)・江戸のどこへ廻着したかは、季節・天候・経済的合理性などの要素が複雑に絡み合っていた。
- 近世に江戸から京を結ぶ道は東海道と中山道があった。現代人は、通常は、東海道を行ったと思っているが、中山道を利用する場合も多かった。
- したがって、江戸・潮来(銚子)・那珂湊のどこへ廻着するかは、その都度の判断になったものと考えられる。
- なお、「江戸直航」と表現したが、基本的には必ず蒲賀に入港し、そこで「改め」=検査を受けてから江戸へ向かった。

私の結論は。

昔、東北新幹線ができる前は、常磐線のL特急乗っても、東北本線のL特急乗っても、30分くらいしか変わらなかったんですね。常磐線のほうがちょっと遅い。あと本数が少ないので、ほとんどの人は東北線乗るんですが、でもちょっといいのがあれば常磐線で行くということもあっただんです。そんなイメージなのかなと私は思っています。

### おわりに

- 石巻港は、北上川水系の内水面水運と東廻り航路の結節点として機能していた。
- 古墳時代には北海道系と東海系の土器が同じ遺跡から出土している
- 遅くとも平泉藤原氏の時代には、平泉の外港として機能していた
- 葛西氏が牡鹿郡を所領としたのも外港を押さえる意味か
- ただし、大きく発展したのは江戸時代

### おわりに

- 川村孫兵衛などによる北上川改修は、流路の整理統合と川除土手の普請により、流域の開発を可能にした。
- そのため仙台領北部では大量の新田が開発された。
- 流路の整理統合により内水面水運が安定的に運航されるようになり、北上川水系は一大流通路となった。
- 石巻港は北上川舟運と東廻り海運の結節点となり、近世を通じて繁栄していた。
- 近世に「港湾都市」=「大津之所柄」であったことをレガシーとして現代に続いている

では、ちょっともう1つ。

いろいろなことがありますけれども、石巻というのは東廻り航路の一番大きな湊、それと北上川舟運の結節点で大きく繁栄していたということで、江戸時代の古文書の表記として「大津之所柄」と、大きな湊であったということで、これをレガシーにして今でも続いているのが石巻というところであったんだろうということです。すみません。かなり尻切れトンボになって申しわけないんですが、資料を読んでいただければ、私の言いたいこともあるからわかっていただけるかなと思います。ということで、終わりにします。



## 報告 「旧北上川かわまちづくりの進捗状況」

国土交通省北上川下流河川事務所所長

高橋政則氏



紹介いただきました国交省の北上川下流河川事務所所長の高橋でございます。

皆様の貴重なお時間をいただきまして、少しご説明させていただきます。

先ほど佐々木先生から河川の歴史は様々な説があるという話がありましたけれども、私の話もこれが絶対だとは思っておりませんので、今後ご指導いただければと思います。よろしくお願ひします。



本日は、題目が進捗状況ということで、震災以降、旧北上川が大きく改変をしておりますので、現在の様な方向を目指し、どの様な状況なのかをご説明させていただきます。



冒頭、少し歴史の話に触れさせていただきます。先程、佐々木先生は江戸時代のことまで話されましたが、明治以降の話を少し付け加える程度でございます。10ページ、11ページです。これは現在の話ですが、私も石巻市へ2年半前に赴任し、北上川の改修に尽力した川村孫兵衛という方がおられたということで、スタンプラリーを開催し、皆様に石巻の様々な場所、歴史的な場所を巡って貰おうと考えました。元々、陸地だった青ヶ崎のところから河道開削するとか、諸説ある話かもしれませんが、様々な孫兵衛が実施した工事の足跡を巡ることができないだろうか、企画させていただきました、今年も実施いたしました。



例えば縄張神社、これは皆さんもご存じだと思いますが、孫兵衛が測量に使った縄が奉納されている神社です。日本全国には気象神社とか、ビール神社とか、様々な神社がございますが、測量の神社というのは恐らくここだけではないかと思っています。全国の測量業界の方々は、ここにお参りに来るべきではないかと思っていますところがございます。

先ほど佐々木先生が話された三川合流点というのは、神取山と和淵山の間で川幅が狭くなっている場所です。わざと狭いところを造り、上流側を溢れさせ、下流を水害から守るといふ、ある意味ダムの様な効果を期待して北上川を整備したのではないかと思います。ただし、何故、支川を集めたのかというのは、舟運のために普段の水量を増やす必要があり、西側を流れていたものを東側につけかえる。しかし、下流に水が多く行き過ぎてはいけないので、わざと狭いところに合流させたとされています。これも治水の一つのやり方ということですので、一つのスポットとして取り上げたところではあります。



本日は北上川の上下流交流ということですが、残念ながら岩手県側はスポットができていません。その代わりに言っただけですが、孫兵衛の出身地の山口県萩市では、孫兵衛の名前がついたお酒等があるということで、石巻市の友好都市である萩市と連携してスタンプラリーをしようという話が持ち上がりました。様々な交流をする上で、歴史的なものを踏まえながら各地を巡るといふのは非常に楽しいのではないかと思います、実施したところでもあります。

ここからは明治以降の話になりますが、明治政府も石巻を守るため、大水が出たときは追波湾のほうへ水を逃がす工事を実施しました。これは明治43年水害後の改修工事の様子です。当時は、鉄道を使って川から掘削した土砂を運搬する工事



をしております。後で説明しますが、川の分派点をつくる工事も実施されました。



明治の河川の付け替え工事が終わった後、ここからは昭和の話になります。



これが北上川下流部の治水の最重要ポイントというべき、柳津、津山の集落です。もともと集落は旧北上川分流施設あたりにあったと地図では示されており。先ほど言った放水路の施工や川幅を拡幅するために、この集落の方々には移転していただいたということです。北上川本川が追波湾の方へ流れて、旧北上川は、石巻へ流れます。大水が出て、ある程度水位が上がると、分流施設

にある2つの水門、ゲートを閉めて、洪水が石巻に行かないようにし、全部追波川のほうに流れるようにします。図の左側が旧石巻です。迫川からの水はこちらに来るので、石巻は全く洪水がないということではないですが、岩手県側から流れてくる水は、全部北上川のほうに流れていくような治水計画を作りました。当初の昭和7年に完成した施設が老朽化したということで、平成20年に分流施設を新設したということです。分派の構想、工事は明治から大正、昭和にかけて行ったということであり、ここには当時の施設もそのまま残っています。

### 旧北上川かわまちづくりの進捗状況



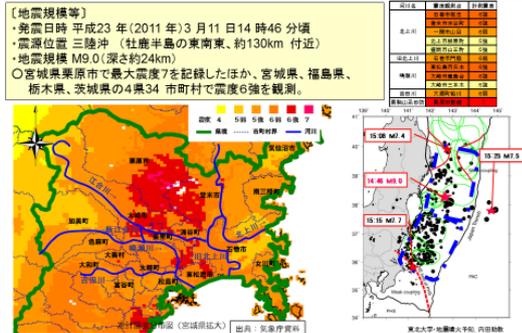
2011年4月26日撮影 石巻市日和山より旧北上川河口を眺む

いよいよ現在がどうなっているかをご説明したいと思います。

これは、NHK等のテレビでもよく放映される旧北上川河口部の写真です。日和大橋と石巻河口、漁港があって、右側にその新港の橋があります。

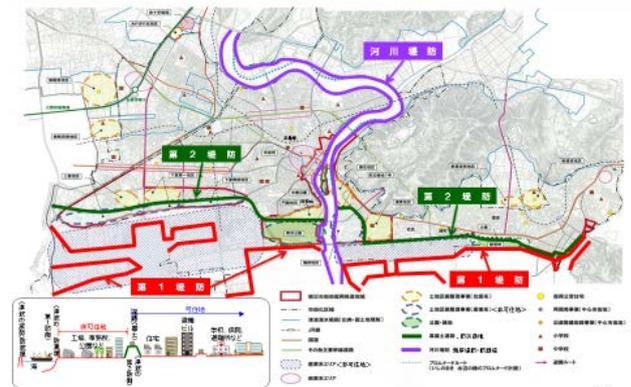
次は、震災当時の話をします。

### 東北地方太平洋沖地震の概要



これは、津波浸水状況の写真です。非常に広範囲にわたって浸水が起きてしまったということです。海から来た水もそうですが、川を逆流して、堤防のなかったところを越えて入った水とか、色々な水路を伝って入った水がこのように広く浸水したということです。今後津波が来た時に、この様な事が無い様、堤防や水門の工事を実施しています。

### 石巻市街地における復興まちづくり概要図



これが全体計画で、石巻市と宮城県も一緒に実施していますが、いわゆる二重防御、第2堤防は道路兼用の堤防です。海からの津波はこの二重堤防方式で守ります。河川堤防は、我々、北上川下流河川事務所で実施しています。堤防が、もともと1メートル強の高さしかなかったものを、4メートルあるいは河口のほうだと7メートルぐらいの高さの堤防に造り替えています。赤十字病院のあたりまで堤防を造り替えますが、現在、我々は河口から上流5kmまでの区間を施工しています。

地域と連携した河川整備

約140回以上の説明会を開催し、延べ1,800名以上の方に説明

**堤防の考え方、堤防計画の説明** (平成23年11月~12月)

- 津波・高潮・洪水等を考慮して計画する (石巻市で約1,900名)
- 浸水対策についてのアンケート調査 (回収総数約1,100枚)
- 堤防設計のための測量着手の報告 (旧北上川河口川で約1,750名)

**堤防計画(案)の説明**

(平成24年1月~平成24年11月 約140回延べ1,800名以上)

計画中の堤防設計について、各町内会(各地区) 単位で説明し、了解をいただく

- 地区別の高さと数幅
- 堤防の位置、横断形状
- 備通を含めた堤防計画

堤防計画への合意

用地幅抗の設置  
用地調査の実施

**護岸矢板工事の着手** (平成25年1月~)

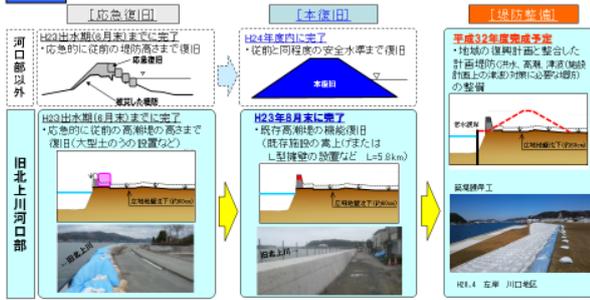
平成25年1月27日 旧北上川河口部護岸復旧事業の着工式

工事を実施するにあたり、当然地域の方々へ説明を何回もさせてもらいました。

河川堤防の復旧の進め方

- 直轄河川堤防の整備について、段階的に安全性を向上。
- 地域の復興まちづくりと整合を図る。
- 洪水、高潮、津波(施設設計上の津波)に対応した河川堤防を整備。

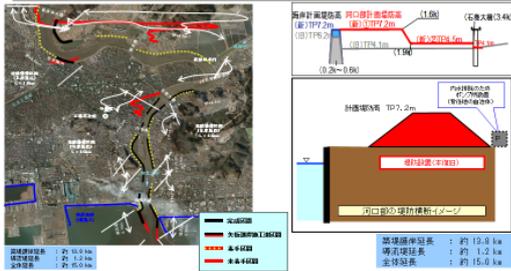
進め方



もともと高潮対策で造ったパラペットと呼んでいるコンクリートのL型擁壁は、震災前は地面から1.7メートルの高さで造っていました。それが地震で壊れたということで、復旧として土で堤防を造り、もともとあったパラペットを撤去するという工事を実施しています。高さが4メートルから河口部に来ると海面から7メートルぐらいの高さの堤防を造っております。

河口部の堤防計画及び事業進捗状況

- 河口部の河川堤防高は、沿岸堤防高と整合を図りながら、洪水、高潮、津波(施設設計上の津波)に対応に必要なとされる堤防高のうち最も高い堤防高を区間ごとに設定する。
- 「最大クラスの津波」については、津波防災まちづくり等と一体とした防災を目指す。



○全体延長約16.0kmの堤防整備、約900件の用地取得を予定。  
○平成29年4月末現在、約9割の用地を取得、約7割の区間の工事に着手。

色がついているのは、工事をしている区間で、曾波神まで工事をしていきます。石巻専修大学の前のあたりは、工事がほぼ完了しているという状況で、現在、主に河口部、門脇のあたり、住吉中学校のあたり、あるいは井内・不動のあたりで工事を実施しています。

これは、堤防を横から見た絵ですが、上下流方向から土を盛った構造の堤防を造っております。

古くから川湊として栄えた石巻市

- 江戸時代、旧北上川河口の石巻は、川湊(かわみなと)として栄えた
- 川沿いに市街地が発展し、川と人々の暮らしは密接につながる一方で、堤防整備は進まなかった



これは昔の写真で、北上川の港に多くの漁船が並び、中瀬、あるいは川縁にも密集するように多くの建物がありました。

石巻市との連携した「かわまちづくり」の推進

石巻市と国が連携して水辺整備を推進

これは石巻市のプロムナード計画ということで、堤防を復旧すると合わせて「水辺の緑のプロムナード」として、人が歩いたりして楽しめるような空間を、北上運河を含めて整備してはということで、今、それに基づいて整備をしております。

## 旧北上川かわまちづくりの「ポイント」

震災により甚大な被害が生じた旧北上川河口部において、洪水・高潮・津波から市街地を防御するのみならず、地元石巻市の新たな「まちづくり」と連携した「堤防を活かしたまちづくり」を推進。

### 「市民の集いの場」、「憩いの場となる水辺空間」の整備



33

中央地区の完成イメージは、こういうデッキがあり、堤防があり、芝生が張ってあり、堤防の上には公園等を整備します。こちらは大島神社ですが、かさ上げをして神社ごと上に持ち上げる工事をこれから実施します。

整備計画のポイント、考え方ですが、このデッキの部分は、コンクリートの基部と言います。人が歩けるような堤防の斜面があり、下には護岸コンクリートブロックが入っており、上を土で覆って芝生を張ります。色々くつろいだりできるような空間です。ここは中央地区のマンションの前で、今、その断面図はないですが、2階部分から出入りできる、幅20メートル弱の広場のような構造にしております。歴史文化を踏まえた形として、もともと川湊だった石巻を意識して、ここに船舶が接岸できるような構造になっています。

皆様と意見交換しながら、こういうVRのアニメーションをつくってわかりやすい整備イメージの説明をしています。また、先ほど新潟市の鈴木氏のお話しにもありましたが、我々もミズベリングのイベントとして、「水辺のヨガ」等を開催しており、そういった意味では皆様に川に親しむというのを体験してもらいながら整備を進めているところです。

こういった形でワークショップ、市民部会等で、様々な議論や体験をしてもらいながら、整備を進めているという状況です。

## 地域住民と連携した「かわまちづくり」の推進



34

全体計画はこの図に示したように6つの地区に分割して、地区毎のコンセプトに沿って整備をしております。住吉・大橋地区、中央・門脇1丁目地区、南浜・門脇2、3丁目地区、川口・湊地区、不動・八幡地区、井内・藤巻地区という区分けです。ここはもともと工場があったところで

## 堤防整備の基本的な考え方

全体のアクセントとして、6地区の拠点部を設定し、それぞれの地区の特色を生かした「丁寧な高い空間」づくりを行う。



35

す。住宅も多く存在するエリアで、ここも水産加工工場があったエリア、不動は少しエリアの幅が狭いですが、住宅地あるいは川縁は工場があるエリア、中央・門脇は一番栄えているエリアです。住吉は、先ほど蔵があったというお話がありましたが、往年の中心市街地であり、少しレトロな雰囲気をもっているエリアです。それぞれのエリアの特性を生かしたハードの整備を実施しています。



36

これが先ほどの中央エリアで、ここに中瀬があり、旧北上川がこう流れているところに堤防を造り、背後地には復興公営住宅やマンション、本日は後藤社長がおられますが、元気いちばの物販・飲食施設等があります。ここはバスの交通結節点で、ロータリーがあります。先ほど言ったように2階から出入りできて、人が散歩したり、フェリーの定期航路の待合室等、様々な人の出入り、あるいは広場をイベント等で使うことを想定しています。中瀬には石ノ森萬画館があり、ここは橋でつながっていますので、ここで飲食をしたり、萬画館で石ノ森章太郎の漫画を読んだり、中瀬公園を楽しんだりして、色々と散歩しながら楽しめるというのが、全体のコンセプトになっております。賑わいの拠点にするという考えで石巻市、宮城県と住民部会の皆様と一緒に取り組んでおります。

これは現在の写真ですが、先程言いましたように、我々が堤防を造り、石巻市のほうでこの四角の部分に盛土をしてもらうという計画です。

ここで堤防の豆知識ですが、堤防というのは大体こういう形にするというのが基本です。では、この部分は堤防ではないのかと言われると、堤防の構造は基本的には、この形で造るというのが決まっています。要はここに水が来たときに、段々と水が浸透して、後ろに抜けない形にするとほぼ決まっています。だから、ここの四角の部分は水から守るという意味では、必要ない部分なので、基本的にはこれが我々の仕事ということになります。この堤防と岸を守るために、ここにコンクリートの護岸を造ります。そういう計画のもと、上を人が歩けたり、芝生の上でくつろいだり、ここを合わせて幅16メートルの広場にする。本来はここが低くなるので、ここを我々以外の誰かに埋めてもらい広くできないかというときに、石巻市と共同で実施するという話になり、現在の形状になっています。16メートルの幅がありますので、先程の新潟市の例とは少し形が違いますが、様々な使い方ができるのではないかとこの部分です。



37

### 堤防一体空間の利活用の推進



38

実際にここの区間は一昨年に完成していますので、堤防の一部を花火大会の観覧席として利用しています。ここの定期航路は来月に就航されると

いうことで、また新たな利用が生まれるということ  
 です。まだ店等が出ているわけでもなく、私も  
 時々行きますが、今はまだ人気のない広場とい  
 うのが現状です。今ここが工事中でまだつな  
 がないですが、ここが完成して元気いちばのお  
 客様が利用できるようになれば、少し様相が  
 変わってくると思います。

**堤防背後地に進む復興事業**



39

これが元気いちばで、実際にはもう完成して  
 いるので、本当は写真を載せれば良かったの  
 ですが、堤防があり、お店と食堂があり、交  
 流センターというフリースペース的な会議室  
 等がある施設もあり、立体駐車場も隣接して  
 おります。この周辺を活性化するための様  
 々な要素は一通り揃っていると思いますので、  
 集客効果が期待できるのではないかと  
 思っています。ここは全て完成しており、  
 交通広場も先月完成して、今はバスが通  
 り始めております。堤防だけが少し未  
 完成で、今一生懸命施工しているとい  
 う状況です。

**復興祈念公園や防災マリーナの計画と一体となった河川空間**

石巻南浜津波復興祈念公園や防災マリーナの計画と水辺が一体となり、市民の集いの場、憩いの場となる水辺空間を整備します。



40

ここは南浜・門脇地区です。

ここに住宅地がありましたが、津波の被害に遭  
 った跡地を国・県・市で造る復興祈念公園にし  
 ようということで、今整備が進められている  
 ところです。先程の中央地区はここです。

旧北上川はこう流れていて、海があり、ここ  
 に公園を造ります。ここには石巻市が造る防  
 災マリーナができて、人が船に乗ってきたり、  
 上から歩いてきたり、自動車でも来たりでき  
 るような公園を平成32年完成予定で整備が  
 進められています。マリーナと水辺、公園が  
 一体となった施設になるという計画です。こ  
 の公園は我々ではなく、別の国交省の事務  
 所と県と市で施工してもらい、こちらが我  
 々の造る河川堤防になります。

**復興祈念公園や防災マリーナの計画と一体となった河川空間**



41

これから各エリアの整備イメージと現状とを  
 比較していきます。これが南浜・門脇地区の  
 現状です。ここが先ほど言った公園とマリー  
 ナで、この堤防は現在工事中です。ここが  
 中央地区のマンションで、ここに見えない  
 ですが、中瀬に萬画館があります。このあた  
 りを人が周遊できるようなエリアにするとい  
 う計画です。公園、マリーナから、萬画館、  
 中央地区、元気いちばあたりまでの距離が  
 1キロ、2キロ弱ぐらいで、歩くには少し  
 長いかもしれませんが、こちらにある日和山  
 神社を、うまく周遊の拠点にできないかと考  
 えているところです。

## 散歩や憩いの拠点となる気持ちの良い空間

防災緑地(二線堤)と河川堤防がぶつかる広いスペースを利用した、川や日和山への見晴らしが良い広場。木漏れ日が気持ちの良い緩やかな斜面の空間、その他並木や駐車場、親水空間等を配置した公園的な空間です。



42

これは川口・湊地区、先程の対岸あたりです。ここは先ほど言ったようなデッキがあり、堤防があり、芝生を張るといった整備イメージです。左岸側です。

これは日和大橋で、現状はどうなっているかと申しますと、先程の日和大橋がありまして、現在、盛んに堤防の工事をしているという状況です。これは漁港です。ここに立っているのは、地盤改良の機械です。このあたり全体が沖積平野で、非常に地盤が緩いため、計画している堤防を造ると地盤が沈んでしまい、反対にこちらの背後地が隆起するという現象が起こります。それを防止するために堤防の下の地盤を強化する工事を実施しており、ここの堤防が造られてきているところは、地盤改良が完了したということです。現在、日和大橋の前後のあたりを施工していますが、早期の完成を目指し努力しています。

少し役所的なことを申しますと、ここから先が漁港のほうで整備されています。ここの灯台があるところは、我々の管理する導流堤で、明治初期のころは、ここまで川湊で使っていましたので、そこは砂で埋まる傾向にあったようです。それを防止して川に水を流すために、ここに導流堤を造って砂の流入を防止したり、川の水を多く流したりして、川に砂が堆積するのを防ぐ対策をしていたようです。

## 袖の渡しを偲ばせるとともに、イベント利用も考慮した親水テラス



45

次は、不動・八幡地区です。先ほどのエリアの上流の東側の堤防のところです。JRの少し下も同じようにデッキがあり、堤防があり、上が芝生の整備イメージです。これは孫兵衛船競漕を行っておりますが、こういったイメージを目指して整備をしております。

現状は、ここに萬画館があり、内海橋があり、堤防は未完成で遅れていますが、そこがデッキで、コンクリートをまだ張っていない状況です。

## 神社・雄島・太鼓橋等との関係を考慮した川側に開けた神社・公園空間

歴史的な神社の前の空間であり、歴史・文化を伝承する場として、石積みやかわどなど地域の歴史を偲ばせる整備を行います。



46

これは住吉公園・大島神社周辺の整備イメージです。

これが現状です。このように壁があり、大島の太鼓橋があり、その後ろに大島神社あります。ここはずっと高さが同じで、堤防ができると神社に当たってしまうので、全体を神社ごと上に持ち上げて嵩上げします。断面図は無いですが、ここは4メートルぐらいの高さ、神社の方も4メートル

ぐらいの高さで、1度神社を移動して、嵩上げ後に元の場所に戻すという工事を行う予定です。歴史的な由緒正しい神社であり、このお日様が見えるライン、本殿から鳥居を経てこの海岸からほぼ東を向いているということで、この朝日を拝むラインを維持しながら、真上に嵩上げする計画です。歴史を生かした川縁として、石積み護岸を造る等の整備も計画しています。

**神社・雄島・太鼓橋等との関係性を考慮した川側に開けた神社・公園空間**

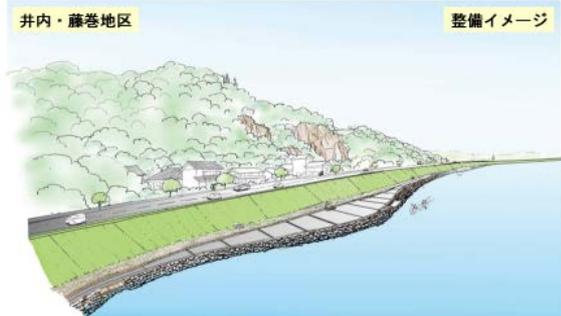


47

ここに大島があり、神社があり、ここの家が無い場所は、用地を提供していただいた場所で、ここまで堤防ができることとなります。

**現在の河岸の石積み護岸の風景を活かした整備**

井内石の優れた産地であることから、現在の石積み護岸を活かした整備を行います。堤防を新たに整備する箇所についても、現況の河岸の形状、産地の「井内石」、多く存在した「かわど(川へ降りる階段)」等のイメージを踏襲した整備を行っていきます。



48

こちらは井内・藤巻地区で、先程の対岸に行き、今度はJRのすぐ下側です。ここも同じようにデッキがあり、様々なことができると思います。

現状はこのような状況で、まだ堤防の工事は始まっていませんが、ここも用地を提供していただいて、これから工事を行う計画になっています。

**現在の河岸の石積み護岸の風景を活かした整備**



49

なかなか一般、地元の皆様に、現在どういう状況になっているのか、将来どうなるかというのがあまり知られていないということもあり、この機会に説明させていただきました。上下流交流という意味では、石巻が下流側の拠点として活気付けば、上流と下流で張り合いのある活動ができ、より良い上下流交流になるのではないかと個人的には思っております。まずは平成32年の復興祈念公園の完成を目標に、工事を進めていくということになっております。

また、この場所、私も石巻での生活は余り長くはないですが、昔はこういう部屋はあまりなかったです。新しいこういうスポットが次々できてきますので、市民の皆様には、どう使えそうなのか、どう使おうか、何か、魚釣りや散歩等の様々な利用方法を考えていただきたいと思います。

**旧北上川右岸中央地区の景観**

**夜も水辺の憩い空間として利用**



50

これは石巻、旧北上川です。向こうの北上川と、これだけの有数の川を持っている地域は、ここには盛岡市も含まれると思いますが、日本全体で見ても余りないと思います。私の実家は広島ですが、向こうにジャンプして渡れるくらいの川しかなかったです。これだけの風景とか、存在感がある山、水辺、地域、様々な建物がある貴重な、本当に絵になる町だと思うので、ぜひそれを生かしていただきたいと思います。本日はお子様はおられません、自慢になるような町になれば良いということで、我々としても少しでもお手伝いできればと思い、一生懸命業務を行っておりますので、今後もこういう地域の素晴らしいところを見て、体験していただきたいと思っております。



## パネルディスカッション

# 『未来に向けた川とまちづくりと展望』



### ■コーディネーター

実行委員長 平山健一

### ■パネリスト

・新潟市都市政策部

次長 鈴木浩信 氏

・石巻専修大学

准教授 庄子真岐 氏

・一般社団法人石巻観光協会

会長 後藤宗徳 氏

・株式会社街づくりまんぼう

まちづくり事業部

課長 苅谷智大 氏

・北上川に舟っこを運航する盛岡の会

事務局 阿部 優 氏

■アドバイザー 北上川下流河川事務所所長

高橋政則 氏



【平山】 皆さん、たくさんお集まりいただきまして、まことにありがとうございました。ごさいました。

基調講演、いかがでしたでしょうか。やはり新潟のやすらぎ堤、規模が大きくて、もうできていますので、使い込んでいるなという感じがいたしました。我々のところはやっと今、施設整備が終わって、これからああいう事業が始まるんだと思うと、随分いろいろ勉強になるところがあったと思います。

また、歴史の話からは川は昔はどこを流れていたかわからなかったんだというのがすごく強い印象でした。佐々木先生にはもっと詳しくお伺いしたいのですが、そんな感じがいたしました。

所長のお話も非常に具体的で、今工事がどこまで進んでいるかというところが非常によくわかったと思います。

今、石巻は今回の震災で一大決心をして、大きな堤防を町の中につくるということで街づくりを進めて参りました。7年半たって、今やっと、町の安全、賑わいの場、そういうものの姿がみえてきているところでごさいます。きょうは壇上に多様

なパネラーがおられますので、いろいろなご意見を出していただき、我々、役所が企画したシンポジウムのパネルディスカッションではごさいませんので、率直に思っていることを市民感覚でぶつけて、率直な議論の場になればと思っております。

きょうの目的は、先ほど私が最初に言いましたように、この石巻が今進めている川を使った町の活性化、賑わいの場の創出等に対してどんな課題があって、それについてどんな対応ができるかということ、そしてこの石巻を単に一つの河口だというふうに見ないで、流域の核となる石巻だという位置づけで、広くお互いに支え合う、連携し合うことができないかという2点に絞って議論したいと思います。

後段のほうでは、例えば盛岡と石巻を舟で結ぶ事業があったらどんなことが起きるんだろうというようなことを話してみたいと思います。

～ 自己紹介・活動・川湊石巻の印象 ～

それでは、早速パネリストの皆様からお話をい

ただきたいと思えますけれども、最初にまず自己紹介ということで、皆さんどんな活動をしているか、あるいは北上川、石巻、その歴史、そういうものに対する思い入れを初めにお話いただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

まず、庄子先生からお願いしたいと思えます。川村孫兵衛シンポジウム、去年、おととしか、あ、先生がパネラーで出席されて、地域のことをいろいろ勉強されたと思えますけれども、そのあたりの印象から、石巻の重みとはどんな位置に流域の中であるんだらうと、そういうことも含めてお話しただければと。よろしくお願ひします。



【庄子】 皆さん、こんにちは。石巻専修大学の庄子と申します。

トップバッターでちょっと恐縮なんですけれども、私は石巻専修大学で観光まちづくりというのを専門にさせていただいております。観光学の中でも、従来の観光地、いわゆる京都とか、東京とか、そういう観光地ではなくて、地域づくりの中で暮らしの質の向上の中で、それを観光にも生かしていく。そのためには何ができるのか、何をすべきなのか、そういったことにも問題意識を持ちながら調査研究をさせていただいております。

実際の活動としてなんですけれども、活動としては、ゼミでの活動というのが石巻でのメインの活動になります。ゼミ活動ですから、学生が学びがなきゃいけないというところで、実践をしながら学んでいこうというスタイルでゼミ活動を進めさせていただいております。どうしても講義とか、調査とか、研究というと、頭でっかちになるところがあって、がんじがらめになって何も進めないというところがあるので、とにかく小さなところから実践して、そこからマーケティングとは何なのか、選択とは何なのか、そういったことを学生

とともに考えさせていただいております。

石巻に私が大学に着任したのが2010年でして、その後震災が起こって、何ができるのかというところで、まずは地域資源、どんな地域資源があるんだらうというところで整理をさせていただいて、その地域資源をつなぐまちづくりマップのようなものですか、まちあるきマップ、そういったものをつくらせていただいております。

また、最近では、きょうも話に出ていましたけれども、若い人がいかに地域のイベントに参加していくか。やはりどうしても大学生、高校生など、地域の活動に参加率というのが下がってきているところがあります。それは石巻でも同様の課題かなというふうに思っています。そういった若い人たちが関心を持って楽しく地域のイベントに参加していく。参加する中でさらに担い手になっていく。そのプロセスみたいなものを明らかにしていきたいななんていうふうに考えております。

私が石巻に来て、石巻に対する印象で、今お話にございましたけれども、おとし川村孫兵衛シンポジウムのパネリストとして参加させていただいたんですけれども、そのときすごく強く印象に残ったのが、最後の市民の方からのディスカッションのところで、「旧北上川は、北上川なんです」という発言があったんですね。「私たちにあって、旧北上川は北上川なんです」と言ったら、会場から何か自然に拍手が起こったんですね。すごくそれが印象的で、皆さんものすごく旧北上川の、旧北上川ってここで言っているのかわからないんですけれども、川に対して生活の中にそれが溶け込んでいて、それにすごく愛着を持っているんだなということを感じたのを覚えています。

そういった議論って、私、そのおとししまでわからなかったんですね、実際。そのシンポジウムに出て住民の方からその意見を聞いて初めて知ったんです。もしかしたら、そういう議論をする場

自体が、今石巻ではすごく少ないんじゃないかなというふうに感じています。

一方、若い人は、余りそういう意識がない。思い入れとか、その北上川とかの話をして、この後うちのゼミのイベントでやる北上川・運河交流館という施設があるんですけども、それは後ほど説明させていただきますが、そういう場所についても、毎日通っているんですけども、何かよくわかりませんみたいなのがあるんですね。なので、若い人にまずわかってもらうというのが一つ大事なのかなというふうに思っています。

ちょっと前にまちあるきマップをつくったときも、まず最初に学生にいろいろなアンケートをとったんですよ。アンケートをとって、ふだんどういったところに行きますかというアンケートをとったら、返ってきたほとんどの答えが残念ながらイオンとかT S U T A Y Aとかだったんですね。これじゃコースをつくれないうふうになって、町なかにあるゼミ生と一緒に整備して、あ、これおもしろそうなスポットだねというところをスポット名を伏せて説明文だけ書いて「行きたいですか」というアンケートをとったんです。そうすると、7段階で評価をしてもらくと、7と回答してくる方が圧倒的に多かったんですね。だから、意外と知らない。知っていれば、もしかしたら動き出す。そういったところがあるんじゃないかなというふうに感じました。

まちあるきマップをつくったときに、石巻がいかに栄えていたのかというのを学生にわかってもらうために、今、きょうのパンフレットにもあったと思うんですけども、石巻港絵図ですかね、1850年ごろの本日の手元のきょうのパンフレットだと思うんですけども、その絵を学生たちに見せたら、すごく「こんなに石巻って栄えていたんですか」というふうに口々に言っていたので、絵から入っていったり、写真から入って行って、

石巻の印象というのに、栄えた歴史に興味を持ってもらうということも大事なのかなというふうに感じております。

あとは、石巻の重みということなので、先ほどの佐々木先生のお話で、私、平泉とのつながりというのを実は全然存じ上げていなくて、平泉とのつながりって非常にこれからの石巻にとっては大きなチャンスだなと感じたところです。これは広域連携のところでもお話しさせていただきたいなと思います。

私から、自己紹介と最初の北上川の印象についてはこれで終わりにさせていただきます。

【平山】 ありがとうございます。昔の石巻の姿など、知らない人が結構多いんですね。だから、そういうところでやはり知らせることによって興味が出て、何か動きが出てくるというような感じがいたしますね。

川の呼称については石巻のシンポジウムに来るといつも出ますけれども、皆さんどう思っていますか。先ほどのお話でも、信濃川も上流に行けば千曲川、県が変われば名前は変わるわけですよ。ですから、多分呼び方が世間に広く定着してくれば、役所もそういうふうになってくるということでしょうね。

【高橋】 そうですね。

【平山】 はい。ありがとうございます。

それでは、次に、後藤会長さんをお願いしたいと思います。子供のころの川の思い出とかいろいろあると思いますが。



【後藤】 皆さん、こんにちは。石巻観光協会をお預かりしている後藤宗徳と申します。どうぞよろしくお願ひ申し

上げます。

私は、実は石巻の出身ではなくて、庄子先生と同じ、今から36年前に石巻に参りました。生まれは宮城県の気仙沼市で生まれまして、小学校の3年まで気仙沼でいて、それから小学校3年終わりのときに仙台に出て、予備校まで仙台にいて、それから大学時代と最初の仕事は東京、そして36年前に流れ流れて石巻に来たという人間でございます。

私は、幼少期気仙沼で育ちましたが、皆さん気仙沼の町の中に流れている大川という川をご存じでしょうか。私は小さいころ釣りが大好きで、私が子供のころというのは、きょうは魚市場の須能社長さんもいらっしゃっておりますが、例えば気仙沼にこの時期サンマが揚がるとか、お魚が揚がると、昔はトラックに積んでお魚を運んでいたんですよね。それが私が住んでいたあたりというのは、トラックが通っていくと、そのトラックの後ろをついていくとぼたぼたお魚が落ちているわけですよ。それを拾って、例えば食べることに、焼いて食べるというようなこともございましたし、それを持ち帰って釣りの餌にしてお魚を漁港で釣るとか、あるいは川で釣るとかというようなことをよく遊びました。

そのころは、大川という川も非常に水がきれいで、川の中に入って釣りをするとか、あるいは手製のボートのようなものを今考えると危なかったなと思いますけれども、魚の入れるトロ箱みたいなものがございますよね。そういったものをボートがわりにして川で浮かべて遊んだりとか、そんなことをよくやっておりました。

振り返ってみると、そのころは、私たちの人間の生活と川というのがものすごく僕は近かったような気がするんですね。もう今のような、きょうご説明をいただいた河川堤防のようなものはそのころはもうほとんどなくて、私が来たころの石巻

も河川堤防は町の中は全然なくて、1級河川が流れている川での河口にある町で河川堤防がなかったわけですけども、本当にもう川の脇に行くと、すぐそこからずぼっと落ちれば川に落ちるという状況ですね。それでしょっちゅう川にも落ちましたし、そういうふうに非常に人々の生活と水辺というものの距離感というのはすごく近かったなというふうには記憶がございます。

それが時代とともに安全性の確保とか、あるいは先ほどから話題になっている治水、それから今回東日本大震災ありましたけれども、私が生まれた翌年にはチリ地震津波というのがあって、私が生まれた気仙沼のほうでもかなり津波の被害を被って、私の親は幼少期の私をおぶって裏山に逃げたというようなことをよく小さいころ教えてもらいました。そういう中で安全性、いろいろな命を守るとか、それぞれの生活、営みを守っていくという部分でどんどん水辺との距離が少しずつ遠くなってきて現代に至っているというような感じがいたします。

そういう中で、石巻というのは、先ほど申し上げましたように、私が来たころは河川堤防がなくて非常に驚きましたし、それが東日本大震災まで町の中には堤防がなかったわけですね。唯一、水押のエリアから上流にかけて堤防があったということで、東日本大震災での大きな津波が川を遡上して町の中に入ってしまっ、先ほども浸水したときのあまり思い出したくないですけどもね、浸水したときの写真があったとおりの状況になってしまったというところでございます。

そういう中で、今回は新しい河川堤防をきちんと整備して、新しいまちづくりというのがこれから行われようというふうにしているわけですけども、何とか昔のその水辺と私たちの営みの距離感というものが遠くならないような形で、その整備されたものを生かしていくというようなことが

求められるんだらうなというふうに考えております。

そして、私は地元人間ではないので、古い歴史というのはわからない部分というのがあります。その中で歴史というものをきちっと生かしていきながら、あるいはもっと先ほど佐々木先生のお話のように掘り下げていくということをおわせてしながら、じゃこれから未来に向かってどうしていくんですかというようなことを本当に真剣に考えていくべき時期に今あるんだらうなというふうに思っています。

皆さんはご案内のとおり日々川を挟んだ光景というのは、河川堤防の整備に伴って変わってきています。また、漁港とか、海岸線の防潮堤とか、そういったものもどんどん整備されていって、光景が変わっていっていますが、要はそこに人の影が存在しないものができ上がってしまったら、私は大変なことになるんだらうと。新しいものを生かすのは、やはりそこで暮らす、あるいはそこに来る人たちの声とか、息づかいとか、そういうものがたくさんないと、そこはせっかく整備した意味がないというふうに思っていますので、ぜひそういったものがこれから新しい形で生まれていくようなことを、私がお預かりしている観光協会のスタッフともども、地域の皆様と一緒に上げていければいいなというふうに今考えて、強く危機感を持って考えているというところでございます。以上です。

【平山】 ありがとうございます。

水辺、もっと人が近づける、そういうような水辺でありたいという後藤さんの思いが非常に強く胸を打ちました。本当にありがとうございます。

それでは、続きまして、荻谷智大様をお願いしたいと思いますが、荻谷さんはここのご出身じゃなくて、こちらに来てどんな印象を持たれたのか

ということですね。石巻の風土性みたいなものをお話しいただければと思いますけれども。



【荻谷】 改めまして、荻谷と申します。よろしくお願いします。

今、先生のほうからご紹介いただきましたように、私はというか、私も石巻の出身ではなくて、生まれ育ったのは愛知県名古屋市になります。名古屋市も堀川だとか、いろいろ川はありますけれども、私自身はほとんど川とつながりを持つことなく高校時代まで過ごし、大学も過ごし、石巻に来て初めて川というものをすごく身近に感じるようになりました。

今は街づくりまんぼうという株式会社に所属しておりますが、ふだんやっていることはといいますと、先ほど高橋所長のスライドの中にもありました石ノ森萬画館の運営が一つメインと、もう一方で、その川の後背地にあります中心市街地というか、商店街というか、旧市街地といいますか、と駅前のみちづくりをするという部隊があります。私はそちらのほう、まちづくりのほうの担当をしております。具体的には、先ほど写真にもありました川沿いのまちづくりを含めたまちづくりの計画を地元の方々と一緒に考えたりだとか、実際に街なかで行われるイベントを企画したりだとか、屋台村の運営などをしております。

石巻に参りましたのは震災後です。石巻に震災前に一度だけ来たことがある、ほとんど初めての状態です。大学を卒業してすぐぐらい、震災後に石巻に来て、何よりもまず驚いたのは、津波が川から来て、あふれて、市街地がめちゃくちゃになったにもかかわらず、「私たちは川を活かしてまちづくりをしたいんです、していきたいんです」という言葉を、全ての人ではなかったですけども、強く言っていっちゃった。後藤社長もそのうちの一人でしたけれども、にわかにはちょっと信じ

られなかったですね。

やはり川に対する畏敬というか、自然に対する畏敬を強く持っていらっしゃるし、それがないと石巻じゃないということ、正直理屈じゃなくて、多分もう心の奥底に植えつけられたマインドか何かなんだろうなというふうに思いました。それが今もやはりまちづくりを進めていく大きなエネルギーになっていますし、震災後、地元の方の話を聞きながら出てくる、母なる川北上川をつないでいかなきゃいけない、大切にしなきゃいけないというのは、すばらしい石巻のアイデンティティーというか、風土の一つなのかなと思いました。

それを今、庄子先生も後藤さんもおっしゃられたように、どういうふうに後世につないでいくかということが、今回のシンポジウムの趣旨だと思いますし、これからのまちづくりでやっていかなければいけないことだと思います。私自身は震災後に石巻に来たので、震災前の身近な石巻の川の様子だとか、写真で先ほど出されたような川に何艘も舟が連なって、いかにも賑わっているみたいなことは知らないです。ただ、私と同じような感覚の世代がこれからもっともっと増えてくるし、恐らく今の大学生とかもそうなんだと思います。

それを昔はよかったとか、川があつての石巻ということでは理解できないので、そこに川に親しお楽しさだとか、豊かさみたいなものを織り交ぜて体験していけるようにすることが多分求められるんだろうなと思います。それを実際に石巻の場合は、もともとそういう、河川にそういった景色がなかったところに、いきなり今まさにできようとしているところなので、どういうふうにいるいろいろな方を巻き込んでやっていけるかというのは、自分自身いろいろ今日の話も、新潟の話も参考にさせていただきながら、頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

【平山】 いろいろなことを手がけられて、ご苦労さまでございます。

岩手県も「津波を憎んで海は憎まず」ということがあります、宮城県でも、想いは同じであり自然に対する畏敬の念ですね。それが残っているという感じがいたします。多分そういうものを生かしていくためには、何かお金だけを求める世界ではなくて、もっと違った基準があるのかもしれないですね。本当にありがとうございます。

それでは、最後になりましたけれども、阿部 優さん、盛岡からいらしておりますので、自己紹介を兼ねて上流での活動などをお話しいただきたいと思います。



【阿部】 今、先生から「すぐる」と言われましたが「まさる」と言います。

最近、岩手県では有名じゃないですけども、秋田県、ワンのほうですね。あちらのほうでロシアのフィギュアスケートのあれが秋田犬の「マサル」というのをかわいがってしまして、随分世界的に有名になった「まさる」でございます。よろしくお願ひします。

私、北上川に舟っこを運行する盛岡の会の阿部でございますけれども、盛岡では愛称を持つものに対して「何々っこ」とつけるんですよ。舟っこも多分その愛称があるからつけたんだなと。また、チャグチャグ馬っことか、それとか姉っことかですね。女性に姉っことか、子供にはわらしことか、そういう意味で舟っこが生活の中に随分愛されておったんだなということで、舟っこを運行する盛岡の会ということでやっております。

きょうのコーディネーターの平山先生には、うちの舟っこの会の顧問もしていただいておりますし、舟運を知らしめるための講演会のときはいつも先生をやっていただいております。ありがとうございます。

そういう意味で、私がきょうここにお呼びいただいたんですけれども、うちの会はまだ2年たっていない会でございまして、本当に新参者で、川については全くよくわかっておりません。どうぞよろしく願いいたします。

きょうは盛岡、そして私どもの会の活動につきまして、スライドを見てご紹介したいと思います。スライドのほうは、松任谷由実ってユーミンというのですね、盛岡に来たときに花巻空港におりたときに、その印象をつくった歌が「緑の町に舞い降りて」という曲なんです。それにのせてちょっとごらんいただきたいと思います。



(スライド参照)

【阿部】 ありがとうございます。

【平山】 本人何も話さなかったのですが、ちょっと話しますけれども、この会は、商店街の店主の皆様が川に乗り出したというので、非常に注目しております。カヌーリストでもない、環境屋さんでもない、河川技術者でもない、これまで無かった異質の人が乗り出した。盛岡は中津川、雫石川、北上川と3つの川が合流してしまっていて、ですから水量がふえて石巻まで200キロの舟運が可能となりました。盛岡の人間にとってはやはり石巻はすごいあこがれでもあるんですよね。そういう目で見ているということ、お互い結びつきたいなというそういう強い気持ちを持っているということを感じていただくとありがたいと思います。

それでは、鈴木さんと所長は先ほどお話ししましたので、省略させていただきます、最初の課題ですね。

～ 川を活かしたまちづくり (課題・提案) ～



石巻の川づくり、今ここまで進んでいます。やはり賑わいを持ちたい、川とのつながりを切りたくない。そういうような町であってほしいと思

ますが、ここまで進んできて皆さんいろいろご苦労されていることだと思いますが、ここがこうなったらもう少しスムーズに進むはずとか、ここを直してほしいと、そんなような課題、そしてご提案なんかありましたら、お話をいただきたいと思っています。

早速でございますが、後藤会長さんからお願いをしたいと思っています。



【後藤】 震災後、北上川、いわゆる旧北上川ですね。旧北上川の河口部をどういうふうにしていったらいい

んだろうかとか、私も中心部、町の旧中心市街地と言ってもいいんでしょうけれども、駅前の近くで仕事をさせていただいておりますので、町の賑わいをどう取り戻していったらいいんだろうかとか、そういうふうなことも観光協会の仕事とはまた別な角度でずっと考えてまいりまして、機会があって、先ほどご紹介がありました新潟信濃川のみずべリングの運用状況とか何かも拝見してまいりましたし、あとは広島のほうにも行かせていただきました。

やはり先進的な地域というのは、川辺を生かしたもう事業というのが進んでいるんだなというふうに思って、大変うらやましく帰ってきましたし、信濃川については河川堤防の先ほどご紹介をいただいたエリアの堤防の外の傾斜率ですか、がたしか1対6で非常に緩やかなんですよね。それで、北上川の今やっている堤防というのは1対3の比率で傾斜ができ上がりますから、それよりももう少し急だということで、石巻の場合は河川堤防のいわゆるこのり面のところにああいう形で TENT を張るとか、そういうものというのはちょっと難しいかなというふうにイメージして帰ってまいりました。

そういう中で、ただ、先ほど高橋所長さんから

ご紹介をいただいたように、その分今度は河川堤防の天端ですね。いわゆる上のフラット、平らなところを少し広くとりましょうというような形で、石巻市さんと一緒に協力していただいて、広い面積をとる部分が何カ所かできてくるということと、それと川の水際のところですね。水際のところにデッキを4メートル、5メートルぐらいですかね、デッキが水のすぐそばまで行きますので、そういうフラットなところがありますから、そういうところを使って水辺、先ほど距離感と言いましたが、そういう距離感を取り戻していけるようなことができるのではないかなというイメージというものを持つことができるようになりました。

だから、実際に他地域に行ってみるとというのは、やはり改めて必要だなというふうに思ったわけですが、そういう中で、では具体的にどんなことができるのかなというふうに、エリアが広いですから、それぞれの地域でできることというのは違うんですけれども、どんなことができるかなということイメージしてみると、震災前、私も20年ぐらい前ですね、石巻に来て10数年たったときだと思いますが、運河がありますよね。北上運河があって、東名運河があって、北上川から北上運河のほうに入っていくと、北上川ですね、正式には。そちらのほうに入っていくところに石井閘門というのがあるのを皆さんご存じですよ。これは水深の高さを調整して舟が入っていく、舟運を可能にするための閘門ですけれども、その石井閘門から東松島市の吉田川の河口部の浜市、鳴瀬川ですか、の河口部の浜市までの運河を舟で走ったことがございます。

二度ほど走りましたが、途中上釜を通過して運河にまた入り込むんですけども、この光景というのは非常に美しく、石巻の方々というのは私が来たときに「あの運河はどぶ川だ」みたいなことをおっしゃるような方がいらっしゃったり

して、とてももったいないなと思った記憶があるので、そこを実際舟で走ってみると、とてもきれいな運河だなというふうに思って、そこを北上川とは直接の中にはないわけですが、川と川をつないでいく運河というものは非常におもしろいなと思ったことがございます。そこに舟を走らせられないかなと今でも思っておりますし、じゃあ北上川のほうはどうだというと、先ほど話が出た北上川沿いの河川堤防の下のフラットなデッキ沿いは、私は多分釣りのメッカになっていくんだろうというふうに想像しております。

もともと震災前、石巻、女川地域というのは釣りをする人たちがたくさん来られて、民宿さんにお泊まりになって、朝、釣りに出て行って、そしてあがってきて、釣った魚をその民宿さんで料理をしていただくというような文化が根づいていたところですが、川での釣りができますので、とりわけ石ノ森萬画館ができた後に、当時館長をされていた矢口高雄先生という先生がいらっしゃいます。「釣りキチ三平」という本当に有名な釣り漫画を描かれて先生ですが、その先生が館長をお務めになったときに、まんぼうさんが主催して、矢口高雄釣り大会というのを実施いたしまして、そのときたしか優勝した方が、日和大橋、ちょうど河口部ですね、の近くで釣られた方で1メートルぐらいのスズキをあげて優勝したというふうなたしか記憶しています。漫画館の周りでも、中瀬のところでも大体60センチ、70センチぐらいのスズキは日常的にあがる場所ですので、そういった釣り大会のようなものが多分これから盛んにできるようになるんだろうなというふうに思っております。

それから、川の河川堤防の天端を利用したところについては、先ほど信濃川でやっていらっしゃるような形の運営協議会みたいなものをつくって、そこで飲食とか、あるいはやってみたいこととし

ては、あそこに今の時期ですと、そうですね、例えば七輪を500個並べて、その上で全部サンマを焼いてみると。これは女川さんに怒られるかもしれませんが、そういうふうなことをやってみたいとか、あるいはこれも11月になってくると牡蠣のシーズンになりますので、牡蠣小屋のようなものを河川堤防の上にならずらっと並べてやってみたいとか、ああいうものができ上がってくることで、トライしてみたいなというようなことはたくさんございます。

それと、陸上だけではなくて、河川の中に舟で回るというのももちろんいろいろな形としてはできるんですが、4メートル四方ぐらいの浮き輪、浮き輪ではないですね。浮いているフローターを用意して、真ん中まで北上川を水上で走って渡るようなイベントを夏場はやるとか、そういうふうにしてぜひ地域の子供たちとか若者がチャレンジしやすいようなことというのをたくさん仕掛けていって、賑わいというようなものをつくっていったらおもしろいのではないかなと今考えてはいます。

【平山】 いろいろなアイデアありがとうございます。確かにここの天端はすごく広くて、いろいろな活用法が考えられますね。それと、デッキは水際に出ているんですか。釣りのほうも話がありましたけれども、非常に適当でございますね。県河川ですよ、運河は。

【高橋】 そうです、はい。



【平山】 これからの議論で河川の施設の使い勝手についてもお話をお願いしたいと思います。ありがとうございました。

それでは、荻谷さんから、この石巻のミズペリ

ングといえますか、川を生かしたまちづくり、あるいはかわまちづくりの支援事業等の進め方で何かご意見あれば。そして、それを誰がプレイヤーなのかというようなあたりも、もしご意見あればお願いしたいんですが。



【荻谷】 どのような体制というか、どのように進めるかという意味では、川とかその周辺をどのようにまずしたいかというところが私すごく重要だと思っています。それを今まさに議論していると思うんですけども、私自身はやはり先ほども申し上げましたけれども、北上川とかそれを取り巻く環境を、石巻市民 14 万 7,000 人が自分たちの自慢だとか誇りだとかと言えるようにすることが、最終の目標というか、ミッションで、そのためにどういった体制とか、どういうことを仕掛けていけばいいかということを考えるべきかなと思っています。

その中で、一番大事なものは、知ってもらうこと、こういう場所がまずできますよと。多分ほとんどの方は知らないということですね。それはしようがない。今からやるしかない。

次に、恐らく本当に言葉のとおりなんですけれども、誰でもアクセスできるし、誰でも使えるというその窓口を、体制というんですかね。つくることが必要だろうなと思っています。

じゃ、どういうふうに使っていくかという話ですけれども、川、先ほどの新潟の取り組みってすばらしいと思います。傾斜の話だとかありますけれども、言いたくないんですけども、やはりなかなかかなわないと思います。川だけを考えるのではなく、中瀬だとか、あとはその背後の町だとかということを含めて、エリアをプロモーションしていかないと、やはり石巻の魅力、川の魅力を存分には伝い切れないんじゃないかなと思っています。

そういう意味で、北上川というか、まずその河口、まさに今元気いちばさんとかあるあたりが、先生のお話にもありましたように、昔そこから米を乗せて東京に持って行ってということからすると、街の玄関口だったというふうに思えるし、今もそういう機能があるんじゃないかと、石巻の玄関口というか、アプローチというか、ショーウィンドーみたいな使い方を堤防の上でしていけるといいかなと。それから、新しくそこで何かをつくる必要は、あるっちゃあるんですけども、でもどちらかというと、今石巻で起きていることを堤防の上で、川で再現する、展示するということの方が、より魅力的に見えるといいかなと。ある意味では新しく見えるようなことになるんじゃないかなと。

例えば、去年、元気いちばさんでやられた夕風ダイニングという、街なかの飲食店がコラボレーションして、イベント期間だけですけれども、新しいレストランというか、ダイニングを表現するというイベント、あれも絶対天端の上でやりたいかなと。主催者ではないんですけども、そういうことをしたいかなと思っています。

【平山】 川だけを見るというんじゃなくて、もう少し大きく見る、川のよさを多様な見方から探っていくとというのは非常に大切だと思います。そうすると、やはりそれを手がける人やチームは、もう一廻り大局的なプロモーションできるリーダーでなければ、川だけ知っていてもだめだし、経済だけ知っていてもだめだと。それをまとめきれないリーダーというや事務局体制が必要になるかもしれないですね。ありがとうございます。

それでは、阿部さんをお願いしたいと思います。盛岡ではかわまちづくりが今進んでいるところですが、いろいろな課題があると思いますが。



【阿部】 今、私たちが行おうと思っ  
ているのは、先ほどもあったけれど  
も、市内のほうのイラストがあるかと  
思います。うちどもの舟っこの会は、観光、そして



中心街の活性化、それから水辺の空間の活用とい  
うことを目標にしながら、市内の商店街のほか8  
団体によって構成しているんです。

そして、盛岡市というのも、中心市街地というの  
があるんですけども、やはりどこの市もそうだ  
と思うんですけども、大型店ができて、郊外が  
お客さんが行って、中心市街地というのは疲弊し  
ておまして、けれども本当はその旧市街地には、  
すぐには模倣できない伝統や技術や文化を持った  
お店、そういうものがたくさん点在しているわけ  
でございます。それをもう一度磨き出して、現代  
の皆さんに触れていただく。そういう機会や、そ  
してそこに住んでいる方々の生活あるいは言葉に  
触れていただく。そういう機会を持つことで、そ  
の地域の方々もまた元気に生き生きとしてくる。  
そんな町おこしができないのかなと思っておりま  
す。

それで、私たちは、盛岡駅がここなんですけれ  
ども、ここに夕顔瀬橋というのがあって、ここか  
ら舟を出して、こう下って、ここは中津川、雫石川  
の合流点もあるんですけども、ここ明治橋、こ  
こまでですね、このちょっと過ぎたところです。  
ここが昔の奥州街道で、盛岡の城下町の入り口な

んです。ここから舟橋を渡ってこの城下町に入っ  
てきた。お城を中心に、この辺が中心になって栄  
えた町なんですね。

ですから、この舟で多くの方を舟下りというこ  
とで、この旧市街地の入り口まで来ていただいて、  
ここからこの町のいろいろな名所旧跡を見ながら、  
そしてまた盛岡駅に帰っていただく。盛岡はコン  
パクトシティと言って、距離がここは先ほどの一  
番最初に流すから終着まで2キロぐらいしかなく  
いです。ですから、修学旅行生の方々なんかでも、  
歩いて楽しみながらちょうどその時間を有効に使  
いながら帰ってこられる。そういうことを私ども  
はやりたいと思っています。

やりたいと思っていますということは、まだで  
きていないんです。なかなかこれが大変なことで、  
私ら商店街ですね、舟とか川のことを本当に素人  
で何もわからないわけです。舟の会つくったばか  
りに、「舟流しましょう」「ああ、いいことだ」と、  
みんな賛成して「それやりましょう」となったん  
です。ところが、舟ないんですよ、まだね。流そ  
うと思ったら。舟を貸してくれるというところも  
あったんですよ。16メートル、17メートルの  
舟貸すよと、「ああ、よかったな」と。どうやって  
運ぶんだと。どうやって運ぶって、「トラックで運  
べばいいんじゃないの」と言ったら、すごくお金  
取られるんですよ。びっくりしたんですよ。え  
っ、高い。こんなにかかるんだらつくったほ  
うがいいなということで、今年つくったんですけ  
れどもね。すごくこの舟というものには課題があ  
りまして、持ってきて、じゃ舟どこからおろすん  
だというわけです。舟を川におろすのにどうやっ  
ておろすんだらうと。クレーンでしかおろせない  
など。これもまたお金がかかるんですよ。どこ  
に揚げるんだと。どこを流すんだと。どこから人  
を乗せるんだと。どこから人をおろすんだ。みん  
なわからないで、ただやれ、やれと。これはいいこ

とだ、おもしろいということで考えただけで、全く何もできませんでした。

やっと北上川フェスタというのを去年と今年で2回やりました。やっと我々の舟もできましたけれども、1回目はポートでおりました。そして、ポートでおいて、上ってこれないですよ、ポートは。それを空気抜いて、トラックに積んでまた持って、またおろして、ああ、これじゃうまくないなど。モーターついてなきゃだめだなど。ところが、北上川の盛岡市内というのは浅いんですよ。モーターが壊れるんですよ。いやあ、これはいろいろなことがいっぱいあるもんだなということで、国土交通省さんには本当にお世話になっております。それから、盛岡市さんにもお世話になっております。よくぞ我々のわからないことをいろいろバックアップはしていただいているんですけども、まだ流せないでおります。

それから、やはり我々考えてやってみたんですけども、川の世界は我々の住んでいる世界と全く別で、規制とか、もちろん安全が大事だからそうだと思うんですけども、規制とかいろいろありまして、私たちからはなかなか川に手は出せない。さあ、ここにじゃ舟流すように坂つくりましたよとか言ったって、そうは我々ではできない。本当に規制できて、やはり国交省の方をお願いしないと、これは全くできないということでございます。そういうことから、我々が使いやすい規制緩和もしていただきたいし、いろいろなそういう手助けもお願いできればなと思っております。

勝手な話でございますけれども、そういうことでございます。

【平山】 ありがとうございます。

川は原則みんなのものでありますから、川の使い勝手をいいように考えていただくことも、後で所長、一般論でよろしいですけれども、お答えをいただ

ければと思います。

それでは、最後になりましたけれども、庄子先生、お願いいたします。



【庄子】 私からは、かわまちづくりの難しさの理由とか、地域づくり、人材、プレーヤーの育成についてということでお話をさせていただきたいと思います。

かわまちづくりの難しさというと、川を使ったってあると思うんですけども、多分これまちづくりにすごく共通するところなのかなというふうに感じています。石巻の場合は、やはりとても山があり、川があり、海があって、特に川で舟運として栄えて、その後舟運が役割を終えた後も漁港として栄え、工業港として栄えてきた。そういった中で、実はまちづくりみたいなものに対して、何もなくてもよかった。ちょっと語弊を恐れずに言うと、よかった、大変恵まれた地域だったのではないかなということを感じています。だから、まちづくりに対して、町への愛着とか誇りみたいなのは皆さん強く持たれているんですけども、じゃあまちづくりと言ったときに、うまく動き切れていないのかなという印象を抱いております。

また、なので自然がとても豊かなので、いろいろなアイデアですね。こういうシンポジウムを通じて、川を生かしたとか、海を生かしたアイデアって、たくさん出てくる人が多いなという印象を持っています。学生たちも少し石巻のことを学ぶと、「どんなことをしたい」と言うと、いろいろなアイデアを出してくれます。ただ、出てきたアイデアを実行したりとか、先ほどおっしゃっていたような信濃川のような窓口になっているところですか、そういったところがないのかなと。そこが一番この石巻の弱点じゃないかなというふうに、私自身2010年から入って感じているところです。

ほかの地域でも同じようなことが言われているんですけども、じゃまちづくりをうまく進めていくのはどうすればいいかという理論の中で一つ言われているのが、大きなプレーヤーはいらないと言われているんですね。それは専門的なプレーヤーです。専門的ですがまちづくりに長けていて、いろいろなイベントを実行しますって実行、カリスマみたいな感じの人です。いてももちろんいいんですけども、その方がいると、その方だけが実行してしまう。そうすると、若い人とか、ちょっとだけアイデアがあるんだけども実施してみたい、でも私素人だからと尻込みしちゃうところがあるんですね。だから、大きなプレーヤーを10人つくるより、小さなプレーヤーを100人つくりましょうと。これがまちづくりとか、町を盛り上げていく上ではすごく大事なことだというふうに言われています。

私自身もそれってすごく最近やはり強く思っていて、そうじゃないとなかなか、例えば石巻では、手前みそで申しわけないんですけども石巻専修大学があって、大学生がいるんですね。大学生をじゃまちづくりの中に「どうぞ地域づくりの中に出てきてください」とよく声をかけていただけるんですけども、やはり大学生には大学の勉強があります。学業に時間を割かなければいけない。そこで学ばなければいけない。じゃ、まちづくりに行ったときに、すごくプロフェッショナルな人たちしかいないとなると、なかなか出づらいですよね。なので、そのプロフェッショナルな人というのもあるけれども、そこをつなぐ人たちがいるとか、何かちょっと相談できる窓口があるとか、そういったことがすごく大事なんじゃないかなというふうに今感じているところです。

かといって、やはりけれども信濃川のお話にもあったように、まずやってみることというほうが、私自身も今すごく大事だなと考えていて、最初の

ゼミ活動のときって、意外と学生にそういった観光振興っぽいのを考えさせるみたいなのに偏重を置いてやっていたんですけども、それよりは何か小さいことでもいいから学生企画でやらせて、そこからいろいろなことを学んでいこうと。やってみると、実際にいろいろなトラブル、思わぬトラブルがあったりとか、あと協力者が出てきたりとかというのがあるのかなと思ってやってみたのが、ちょっと宣伝になってしまうんですけども、今回チラシを入れさせていただきましたが、この来週開かれる全国運河サミット、宮城県さんが主催になっているその同日にサブイベントとして、北上川・運河交流館、先ほどお話がありました石井閘門の近くのところにある、ちょっと裏面にある地図と、あと運河交流館についての説明が載っているんですけども、この北上川・運河交流館、実は新国立競技場を設計する隈研吾先生が設計した石巻の本当に屈指のアート建築だなというふうに考えていますけれども、そこは震災後ずっと休館していたんですが、限定解放させていただいて、学生もこの建物自体を知らなかったんですけども、初めてこちらの建物に入れさせてもらったときに、入らせてもらったときに、こんなすばらしい建物があるんだと、こんな建物があるんだったら、やはりこの辺を魅力発信していくべきなんじゃないのということ、今回こういったイベントを企画させていただくことになりました。

イベントの内容は、最初いろいろなことが出てきたんですけども、まずは絶対最後までやり遂げるということを目指にしようということ、じゃ、この北上川・運河交流館の今の問題点って何だろうと、もちろん休館している、なかなか行けないんですけども、学生が夜通ったんですね。真っ暗だと。何も見えないと。昼は結構お散歩とかされている方がいらっしゃるんですね。これは夜でも真っ暗で散歩するにはちょっとあれだし、

でも夜照らしたら結構きれいなんじゃないかという話になりまして、少しライトアップしていこうということで、じゃあ何を使ってライトアップしようかといって、最初はペットボトルだ何だと言って実際作り始めたら、意外と時間がかかるんですね。結局行き着いたのが、うちの大学の裏山に実は演習林がありまして、たくさん竹が生えていて、竹害になっていたんですね。その竹を伐採したら、山にとってもいいし、ただでまず手に入るし、いいんじゃないかということで、裏山から竹を伐採して、それを切って竹灯籠みたいなものにして、LEDのライトをつけて照らして、その幻想的な空間を楽しんでもらおうということで企画をさせていただきました。

もちろん、ここ休館中なので、下流河川事務所さんをお願いしたら、「いいですよ」とすぐにご快諾いただきまして、また、市役所の方にもお願いしたら、いろいろ協力をしていただいて、竹の伐採についても、すばらしい北上川運河の協議会の方が協力をしていただけるということで、竹伐採するとき一緒に来ていただいて伐採をしたら、すごく皆さん手際がよくて、本当はこのチラシに300基と書いているんですけども、実際700基準備できて、倍以上のイベントを来週開催できることになりました。

なので、やりながら、本当にこれは小さいイベントなんですけれども、学生たちもやりながら、思わぬ協力者がいてくださることとか、あとは実際雨が降ったらどうなんだろうとか、そういった難しさを学びながら、今小さい、小さいながらもプレーヤーとして地域に出ていこうかなというところがございます。ぜひ皆さん、来週土曜日、雨でもやりますので、足を運んでいただきたいというふうに思っています。

【平山】 ありがとうございます。

難しさは人材育成だということで、柳川の広松伝さんとか、新潟の鈴木浩信さんとか、そういう大物はなかなか出ないので、小さいところからプレーヤーを育てていこうと。本当に我々にとっていいご意見だったと思います。

それでは、鈴木さんと高橋所長さんからのコメントをいただきたいと思いますが、鈴木さんには石巻のお話を聞いてどんなふうにお感じになったかというような印象、それと所長さんにはやはり一番端的に占有の規則のことを聞きたいと思いません。係留、堤防の利用、利用の手続きですね。それと流量の調整や浚渫は可能か。そのあたり、一般論でいいですから、優しく答えていただければ大変ありがたいと思います。

それでは、まず、鈴木さんからよろしくお願ひします。



【鈴木】 いっぱい褒めていただきまして、びっくりしました。私、このまちづくり推進課という課長をやらせてもらっていますけれども、何かやろうとかというふうにあまり声を上げてはせずに、したいんだけどという相談を受けたときには、やれるためにはどんな工夫がいるとか、どんな法整備がいるとか、どんな斜め読みをしたほうがいいとか、我々がかかわるための理屈、屁理屈は一体何なのかみたいなのは、ちゃんと整備しろよなという指示をした上で、指示を出します。

ですので、キーマンだとかということではなく、本当に例えばきょうお越しにいただいている荻谷さんみたいな方が、ぜひここは皆さんに共通して何かやってみたいんだという声とか発想を、例えば私であれば、その声を拾うというか、一緒に考えてみるというような立場の人間がいるんじゃないかと。当然、新潟市なんてそんなことを言ったら、あのやすらぎ堤の管理者という方は当然きょ

うもいらっしやいますけれども、国という部署があって、間に挟まっているというだけですから、全然権限はないんですけれども、その中間の人間が、あるときは管理者寄りの発言をして、あるときは主催者側のというふうによく、「でもね、これは管理者だからこういう整理がいるんだよ」とかみ砕いて相手に教えてあげることによって、相手は「そうなのか」と。「本当はこうさせてあげたいんだけど、でも今はここはこうだからだめなんだってさ」というような、そんな立場の人間がいると、もう少し皆さん方が自由なまちづくりも川づくりも何でもありませんよ。

とにかく楽しく、もっと言うと、下世話で申しわけないけれども、儲かる仕組みを考えると、多分皆さん長続きできるんです。行政はとにかく公共事業という形なので、あまり最後まで面倒見ずに、怒られるな。つくりっぱなしみたいなところがあるんです。あと維持管理は民間の方にお任せとか、いろいろなことが考えられる中で、それは多分皆さんの税金なので、経営意識もないから、怒られますけれども、ないからそういう発言ができるんですけれども、もし皆さん方がそこで投資をして商売をするとなったら、やはりいろいろなリスクは考えると思うんですよね。そのリスクは、1年で取り戻せるリスクもあれば、3年越しで長い目を見た中で必ずこれは商機が来ると思う、そんな展開もあると思うので、そこは無理強いも、我々行政の立場であれば、無理強いはさせられませんし、なおかつ、やってもらっている方もすぐウハウハで儲かるということはないと思います。

その度合いをうまく拾って、拾うという言い方も失礼なのかも、一緒に取り組んであげられるかということもあって、ちょっと1個愚痴を言うと、ミズベリング、一括占用、新潟市がとりあえず全部借りていて、また貸しをしているという形でスノーピークさんとか出店者の方にさせている

んです。そうすると、出店者の方は、思いつきじゃないんでしょうけれども、こんなイベントをやりたいという話をしたときに、大体2週間ぐらい前ですよ。1週間とか3週間ぐらいですよ。許可おろすのにね。3日ぐらい前に持ってくるんですよ、それを。広報は、自分たちのネットワークで既にもう日付ありきで動いているので、そこで3日後のイベントをこの河川管理者に市が頭を下げてと言ってくるんですよ。「すみません、お願いします」って。それは、「うちはそのイベントわからないから、ジャスノーピークさん自分で話をしよ」と言うと、河川課の人は嫌がるんです。市に貸しているんだから、市が説明しろって。それで、我々がその主催者からこんな話で実はこれこれこういうイベントでこうだという話をしても、ちょっと我々がまた聞きで「ん、またじゃあそれは折り返し電話します」と言うと、また不安に感じて、またその許可がまた延びるんです。そんなことをやっている板挟みの市町村ってなかなかなくて、でも後でちょっとフォローあると思うんですけれども、管理者の現状ってそうなんです。

ですので、やはりその民間、民間って言い方は失礼だから、私もあまりそんな言い方はしたくないんですけれども、いわゆる発想のスピードというのは、我々行政側が思っているスピードのはるかに上を行っているので、皆さんの思い立ったことを「よおし、わかった。じゃ、やるためにはどの法律のどれで」とのりくすりやっていると、すぐその活きのいいアイデアは腐ってしまいますので、そのスピード感を我々行政側も酌んで一緒にスピード感を持つというのが、多分かわまちづくりと関係なく、これからのまちづくりと一緒にかわっていき、これ使命なのかなと思います。

だから、ノリがいいからとか、あの課長何でもうんうんと言うよということでもなくて、そういうふうにやりたいなと思うような部分を、どこで

拾うのかな。ちょっとわかりませんが、そんな感じでできるだけ早いスピード感を持って対応してあげているという部分なので、川だろうが、町だろうが、町内会の活動でも何でもいいんですよ。とにかくその一歩の活躍できる場所がたまたま川であったり、どこかの町の広場であったり、どこかであって、皆さんが何かをしたいということは、別に場所に関係なくどこでもやればいいと思いますので、その窓口的なものに今みたいな、ぶっさらぼうでも何でもいいんですけれども、相談に乗ってくれる人というのは、多分どこの役所でも必ずいると思うので、ただ、手を挙げて「私です」というのは、役所は言わないんですよ。仕事が増えるから。だから、言わないんですけれども、でもあの人だったらちゃんと答えてくれるなみたいな部分は、必ず市役所でもどこでもいますので、その方をうまく引っ張り出してあげるとおもしろいことが皆さんの中でできるんじゃないかなと思います。

別に市役所じゃなくて、まちづくり部署じゃなくてもそうです。観光だったり、福祉だったり、必ずおもしろくてそういうふうなところを拾ってあげられる人材というのは必ずいるので、そこはどこの部署でもいるんです、必ず。ただ、それを表面だって言える場所がなかったり、スポットライトが当ててあげられなかったりするんで、埋もれてしまって、2年、3年でまた次の場所、次の場所と異動するんですけれども、必ず行った場所、場所では仕事がついていきますので、必ず何かあると思います。そんなところのパートナーシップをまずつなぐということが一歩なのかなと、すごく俺、庄子先生の前で生意気なことを言っていますけれども、というふうに思います。

【平山】 ありがとうございます。

それでは、所長、今のご意見に対してのコメントがあれば。



【高橋】 そうですね。確かにうちも川を管理しているというのは「無理をせないかん」というのがあって、そこでお貸しするのは全く大丈夫だと思うんですね。要は河川法とかそういう行政法というか、何か洪水で堤防壊れたときに、「じゃ誰のせいなの」というのがちゃんとわかるような仕組みになっているところだったり、そこで従来100年、一生懸命ひどいこともやってきたのかなという感じはあるんですよ。

ただ、最近は、そこはある程度「心が愉快」というか、根っこのところはあまり変わらないかもしれないんですけれども、確かに川というのは洪水から守ったり、水道の水を運んだり、魚が棲んだりとかという機能と、プラスそのふだん使ってもらったり、今だともっと緩くなって「商売に使ってもらってもいいですよ」みたいになってきているので、次長さんがおっしゃったように、別に川じゃなくても道路でも何でもいいと思うんですけれども、そこにインフラがあるというのを皆さん、要は地域に元気になってもらうというか、町がずっと栄えていくために使えるということであれば、「は使っていていいでしょう」というふうに最近なりましたので、ぜひ、「どう使うか」というのはうちのほうもよくアイデアがないので、そこは皆さんで考えて、新潟の先進事例とかも参考にしていきながら、後藤社長のすばらしいアイデアとかもあると思うんですけれども、ぜひそういうことで使っていただければ、大概のことはできると思うんですよ。

そのために今回広場をつくったというのが、皆さんもですけれども、つくられたということもあるので、あそこの部分についてはですね、ぜひそれは本当にいろいろ考えていただいて、「地域のた

め」あるいは「自分のご商売」でもいいのかもしれませんが、多分商売して儲ける方以外にそれを利用される方も便益を享受されるということで、お客さんが満足を得られることになって、市民が満足を得られるようになればいいと思ってやられると思います。そういうことをぜひアイデアを出していただいて、「川をこういうふうに使いたいたけれど」と言ったら、基本的には穴を掘ったりとか、何か削ったりとか、杭を打ち込んだりとか、そういうふうなことをしなければ大体は大丈夫と思うので、そこはぜひ逆にアイデアを考えていただいて、使っていただければと思います。

そこは本当に我々もここ二、三十年の中でだんだん意識が、我々というか、その河川管理者として意識が変わってきて、本当に「川の上で商売していてもいいですよ」、手続を踏めば商売していいというようなことになっているんですね。そういう意識を持っていただければというふうに思っております。

まさに、そのことで私も説明の中でちらちらとは申し上げたんですが、なかなかそこをまちづくりまで広げてうちで全部考えるというのは無理なのかもしれません。ただ、それを庄子先生がおっしゃった小プレーヤーか大プレーヤーがいいのかもしれませんが、例えば総合的に考えてくれる、あるいは川の上だけでもいいですが、考えてもらうためには、特にうちは無理なものはまだない、ハードウェアはまだないので、そこをまさにいろいろな試行をしてみたりしながら、それは商売としての試行もあるでしょうし、河川法との絡みで「ここまでできる」、「どこまで行けるんだ」とかというふうな試行を含めてだと思えるんですけども、いろいろなこと、小さいことからイベント力というのになるかと思えます。そういうのをやっもらいながら、だんだんとじゃあ未来の旧北上川と町が皆さんの意識の中でどうなっていくのかとい

うのを探り、探りいくのかなというふうには思っています。とにかくうちもまだ窓口になりきれていないという状況は本当に申しわけないという感じでいたんですが、何でも相談をしていただければ、一緒に考えていきたいと思っております。以上でございます。



【平山】 大変お答えしづらい問題をお聞きして、申しわけありませんでした。

大概のことはできるとおっしゃったので、安心はしていますが、昨年所長もお出になったと思いますが、盛岡でやったシンポジウムで、リバフロの金尾理事長は、河川管理者はもっと大胆になれるという檄を飛ばしていましたので、柔軟な運用をぜひお願いしたいと思います。それだけつけ加えさせてもらいまして、ここまできょう答えていただいたのは感謝いたしております。

～ 流域各地域との広域連携による石巻の活性化 ～

【平山】 それでは、時間が少し押していますので、次の問題に入りたいと思いますが、次は川を使った広域連携というか、上下流交流を石巻を中心にしてやってみたらということで、ご意見をパネリストの皆さんからいただきたいと思いますが、一つ最初に提案を阿部さんのほうからしていただきまして、それを中心にご議論いただきたいと思えます。 それでは、阿部さん、よろしく願います。



【阿部】 盛岡、南部藩には宮古港ってあるんですけども、盛岡には海に通じる川という北上川。やはり内陸にいますと、海があこがれます。盛岡から北上川を下って太平洋へと考えたわけでございます。先ほどの話で言えば、まだ盛岡の間でも川下りできない

のに、またほらみたいなことを言ってしまうと思われるかもしれませんが、いずれは夢として盛岡から太平洋までつなぎたいと、そういう夢を持っておりま。なかなか木の舟では大変でしょうから、仮にボートでも連携しながら、何日間かかるわけですから、盛岡から次、北上まで、その北上のところで旅館とか世話をしたり、宿泊の世話とか、それから町の見学とか、食とか、そういうのを含めていただくとか、そしてまた次の地点にリレ

代、そして藩政時代はこうだったというのが示されている資料でございます。

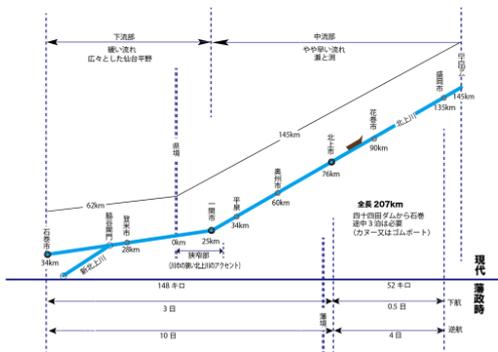
そのほかにも資料をいただいておりますが、実はもう太平洋に行っているということがあるんですね。ここに出ていましたけれども、この資料の中に太平洋まで行っているというふうな資料がございました。一つは、北上川流域連携号で北上から石巻まで往復270キロ、これを2003年に  
行っておりました。また、こちらの資料を見ますと、盛岡からディズニーランド、ディズニーランドに行こうというのがもうありました。もうこのキャッチフレーズで1997年、2年を費やして780キロの川の大調査、これ東日本水海路構想舟運可能性調査研究会、携わった方が545人の方が携わって、これが何と平山先生が行っていたんですよね。盛岡からディズニーランドまでということで、もう調査しておるみたいです。

そのほかにも、こういう新聞記事も見せていただきました。これ、北上の連携号みたいですけれども、これ、2001年ですね。元旦の河北新報の新聞みたいでございますけれども、

東京から新幹線で2時間半で盛岡へ Discover Pacific Ocean  
盛岡 北上川を下って海まで3日コース 太平洋へ  
盛岡～石巻160kmの旅

お食事・特産品のご案内

| 品名         | 単価    | 数量    | 金額     |
|------------|-------|-------|--------|
| 川で繋がる地域の連携 | 6,000 | 5,000 | 30,000 |
| 2日目        | 5,000 | 3,000 | 15,000 |



一するとか、そういうことで何かこの地域の活性化ができるのかなんて考えておりました。

そういうことで話をしておりますと、いろいろな方から資料を頂戴いたしますけれども、これも盛岡から石巻までつないだら、どういう形になるかということの資料を頂戴いたしております。現



これに取り上げられておりますけれども、この中にすばらしい文言があったもので、ちょっとこちらの右側のものを抜粋してみたんですけれども、この中にこういう言葉が入っているんです。「藩、県、市町村、川はそんな人間社会のつくった際を軽々と超えて、長い交流の歴史を刻む。自由な交流を阻害している社会的壁や人間の凝り固まった

よみがえれ みず・舟・ひとのきづな

かつて航路の調査は行なわれていた

全長270kmの航路  
2003年4月18日～6月10日

宮城県、船に乗って東京のディズニーランドに行こう！  
780kmに及ぶ日本一の「水」の道、を通る  
1997年4月19日～  
1999年6月12日  
参加人数 545名

北上川流域連携号  
東日本水海路構想舟運可能性調査研究会

意識を一旦壊してみる際崩し。そして、開かれた関係の中で新しい地域の個性を発見していく際立ち。もはや利便性、効率性、何でも東京の時代ではない。一度立ち止まって、地域、地域の多様な価値を見直してみよう。連携の主人公は、お上ではなく私たちだ。」これ、平田船、北上川広域連携号の検証実行委員長の軽石 昇委員長さんがお話しした言葉です。

もう1つ、この先ほどの冊子の中にありました。この平山先生のつくった冊子の中にあっただすけれども、「新しい国土づくりには、地域間の新しい交流を起し、地域がそれぞれの特性に応じた適切な役割を担い、相互に完結・連携し合うことで、地域の活性力を、活力を高めていくことが望まれます」ということで、これは平山先生のコメントでございましたけれども、こういうように読んでいくと、みんなこの地域をつくろうとしている同じ同士なんだなど。地域の価値を取り戻す必要性、新しい交流が地域づくりには必要なんだ、などなど、この文章を読ませていただいて、太平洋への連携はできたような気がいたします。

以前に、私も北上川の舟っこの調査として、四十四田ダムから盛岡駅前までの短い距離なんですけれども、ボートで下ったんですよ。平山先生も一緒に下ったんですけれども、そのとき、うちのかみさんが、後で焼き肉パーティーしましょうと焼き肉焼いて待っていたんですけれども、そのとき、こういうことを言ったんですよ。「川から帰ってきたときのみんなの顔は、まるで少年が目をきらきらして子供のような笑顔だった」と言った。川というやはりそれが力なんでしょうね。その川という大自然は、やはり人間を純粹にしてくれる。川でつながって、舟を媒体としながらも、地域を思う、そんな同じ志の皆さんと交流できたことに感謝を申し上げます。

【平山】 ありがとうございます。

1カ所ですべてやっているのも大変なので、これを結ぶとなると、またものすごく大変なエネルギーを費やすと思いますが、そういうことも含めて皆さんから余り時間がないので一言ずつお願いをしたいと思いますが、まず後藤会長さん、ごさいますでしょうか。



【後藤】 広域連携という、広域連携というのはいろいろところで使われる言葉ですけれども、一番難しいのは人が欲しいんですね。プレーヤーがほしいです。先ほど庄子先生のほうからも話が出ていましたが、本当にもういっぱい、いっぱいですね。今の被災地の老いも若きも、私ちょうどきのう還暦だったので、きょうから老いのほうに入りますけれども、本当にもういっぱい、いっぱいだと思います。それで、荻谷君のような新しい若者がこうやって石巻に参画してくれて、彼は石巻で家を買って今住んで頑張ってくれているわけですが、こういう人たちがもう本当にあと二、三十人いたら、石巻はもっと元気になるんだろうというふうにひたすら願っているところです。

きょうも会場に若い方が結構いらっしゃいますので、ぜひぜひご参画をいただければ、窓口は石巻観光協会です。受け付けていますので、いつでも結構ですからご連絡を頂戴したいというふうに思っております。

広域連携というところなんですけれども、我々はいろいろなところと広域でつながっております。先ほどの資料でも、山口県の萩市の事例も載っていましたが、萩とも石巻は友好都市に震災後なりました。私も観光協会では、山形の米沢、それから秋田県の湯沢と友好観光協会を結びながらいろいろな交流事業もやっております。震災後できたご縁としては、伊勢神宮がある伊勢市、それから沖

縄の大宜味村とか、あるいは長崎とか、もういろいろなところと交流させていただいておりますが、広域連携というのはとても重要なんですね。その中で、ただ、今回の広域連携というのは北上川ですから、もう川というものでずっとつながっているところと今までの広域連携とは違うところだと思います。それが多分先ほど舟でずっと下ってみたいという大変ありがたいお話を頂戴しました。

ぜひ私も大分前に、やったことはないですが、テレビで見たのは、カナダのユーコン川という大河、カナダを代表する大河がございませぬ。こちらはたしか400キロ弱ぐらいの舟下り、300数十キロだと思いますが、舟下りをたしか6日間ぐらいかけてやるんですね。その6日間ということは、要は5泊するわけです。そうすると、川沿いには川の駅ならぬ川のキャンプ場みたいなのが小さいスペースですけどもそういうのが川沿いに整備されていて、そこにカヌーをつけて、そこでバーベキューしながら食事をして、一晚テントを張って過ごすということで、大自然の中で熊に襲われる危険があるというところですから、そういう部分で非常にどこでもキャンプできるというところではないようですけども、非常に雄大な自然の中で川下りをしていくということが、じゃあこの東北でできるかという、もうほとんどこれは開発をされているところが途中にたくさんございませぬから、ただ川というものがつながっていて、川で2泊なり3泊なりをしながら下っていくというのは可能性としてはおもしろいのではないかなというふうに思っております。

その中で、私どもが観光協会ともう一つお預かりしている広域観光をするチームがあるんですけども、そちらのほうでは今サイクルツーリズムということで、自転車を使って広域観光をしましょうということをやっております。今年から本

格的に始めて、ヤフーさんが多くの方ご存じだと思いますが、ツール・ド・東北ということで震災後石巻から気仙沼までのルートで自転車を走らせていただいておりますけれども、それを通年でやっていこうということで、今年からトライアルを開始したところですね。「目指せ しまなみ」にキャッチアップということですね。やり始めております。

そういうところで、川と自転車というのは、私は可能性はあるんだろうというふうに思っています。そのカナダで川下りをしているカヌーに自転車をばらして積んでいるという光景も見たことがございませぬので、そういうふうなことができれば、もしかすると川を下りながら少しフルトライアルできそうなところがあれば、ひたすらそれを自転車で上ってみるとか、下ってみるとか、そういうふうなことももしかするとできるのかもしれない。そういった可能性というものを少し時間をかけて環境を醸成していくというのは、一つのやり方なのかなということで、私も盛岡には結構縁がありますので、ぜひ盛岡とこの北上川というのをつないでみれたらおもしろいなというふうに切に願っております。

【平山】 はい。励ましのお言葉、ありがとうございます。

それでは、次に、若手として期待されておりました荻谷さん、よろしくお願ひします。



【荻谷】 頑張りたいと思います。

広域連携という話で思うところは、連携する意義、石巻にない資源を盛岡さんは持っている。それを補完し合って一緒にやってみようという考え方は、非常にまちづくりにおいても、大事なことだと思うんですけども、ただ、ふとじゃあ日常で例えばですよ。じゃ

観光協会さんと街づくりまんぼうさんと連携してやりましょうよと言って、連携したためしはあまりないというか。例えばです。

だから、どういうふうにきっかけをつくっていくかということが非常に大事だと思っていて、二つぐらいあるんじゃないかと思っていて、一つは、先ほどご提案されたような、何かこれやりたいたいと思っている人たちに興味を持ってもらえるかどうか。先ほどの舟のお話、すごくおもしろかったですし、例えば最初は石巻の歴史について、佐々木先生のお話、僕非常に興味深く楽しく聞かせていただいた。石巻だけでああいった、いわゆるミステリーというか、プラタモリみたいな話があって、上流から下に下っていく間にそれぞれのそういうミステリーを聞くことがその舟の中でできたら、ある人にとってはすごくおもしろい、ある人にとっては非常に辛い話かもしれないけれども、僕はすごく楽しいだろうなと思って考えました。

もう一つは、やはりその地域で活動している人、あるいはそれをやろうと思っている人がどれだけ魅力的であるか。この人と一緒にやりたいと思ってもらえるかどうかが多分一番重要だと思っています。新潟のお話、やすらぎ堤の話はずっと聞かせていただいて、やすらぎ堤の話は大変興味深いし、参考になる部分もあったんですが、それ以上に鈴木さんという方が非常に魅力的で、「あ、この方と一緒に仕事ができるといいな」と思ったりもして、そういった方がそれぞれの組織なり、団体にいることで、おのずと連携って進んでいくんじゃないかなと思います。

だから、人材育成の話もされてはいたけれども、若い人だけじゃなくて、今仕事をされている方々がやはり自分をどう魅力的にしていくかみたいなことも、いずれその連携につながっていく大事なポイントかなと思って聞かせていただきました。

た。

【平山】 やはり人のネットワークですね。それは大切だなと思います。

それでは、庄子先生、お願いします。



【庄子】 広域観光は非常に難しいですね。難しいなと思うところがあるんですけど、やはり観光という視点から言うと、観光客から見ると、行政区域の区分とか、全く関係ないんですよ。その地、そのどこに行きたいとか、今で言うと例えば北上川の歴史とかってキーワードだったら、それに基づいてその人の中でイメージがつくられるんですね。そこがやはり逆に言うと連携していないということか、うまく観光資源とかを組み合わせて、いろいろな観光商品として提供されていないと、やはり魅力的な観光地にはならないんじゃないかなというふうに思っていて、そういう意味では、北上川というのを切り口に観光資源というのを提供していくというのであれば、北上川じゃあ石巻だけイメージする人なんていませんから、広域観光が必要か、できるかできないかじゃなくて、やらざるを得ないんじゃないかなというふうに私自身は考えています。

ただ、実際やろうとすると、じゃどこが音頭を取るのみみたいな、地域間競争みたいな問題があるので、そこはやはり一つクリアしていかなければいけないのかなと思うのと、実際にそういうのをクリアしてやってやるとなると、ものすごい長い年月がかかってしまうので、やはりこれやれるところからやっていくというのが一つ大事なのかなと思います。

ただ、太平洋までに通すというのは、夢としてとてもいいことだと思いますし、実際あったらとても魅力的な商品になると思うんですね。だから、

もしそれができないのであれば、できる地点からちょっとずつつなげていくみたいな、そうやってできる地点からつなげていくと、その短い地点間でまた交流とか、その小さい地点間だけの商品みたいなものもでき上がっていくと、四国のお遍路じゃないですけども、お遍路とかも1回で全部88カ所めぐる人って、なかなかいないですよ。分けて人生で踏破していくというか、そういう感じのやり方でも、この指とまれ方式とかってよく観光でも言うんですけども、そういう感じでやっていったら、もしかしたらみんな過半数の人、地域が指にとまると、みんなその後とまってくると思うので、楽しんで進めていくのも手なんじゃないかなというふうに思いました。

【平山】 ありがとうございます。

全般的に前向きな反応をいただいたと思いますけれども、やはりもう少しいろいろなことを調べることも必要でしょうし、仲間を増やしていくことも必要だと思いますので、そういうことを踏まえながら今後進めてまいりたいと思います。

#### ～ 会場との意見交換 ～

それでは、時間がもう5分ぐらいしかありませんので、鈴木さんと高橋所長に最後にコメントをいただきますけれども、その前に会場から3分ぐらい時間とりまして、何か会場のほうでご質問やら賛成なり反対なり、いろいろなご意見あるかどうかと思いますので、それをいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。どうぞ遠慮なくご意見ありましたらお願いしたいと思いますが、いかがですか。



【長田（質問者）】 それでは、新潟市の鈴木次長に少しお伺いをしたいと思います。

信濃川のやすらぎ堤のかわまちづくりの取り組

み、大変興味深く聞かせていただきました。ただ、非常に成功例だと思うんですけども、一方で非常に苦労した点だったりとか、うまくいかなかったような点だったりとか、そういうことがあれば教えていただければと思います。



【鈴木】 質問ありがとうございます。

苦労した点ですね。いや、私、いまだにうまくいったとは思っていないんですけども、周りの方がそういうふうに言われて、ぜひと言われるので、「ああ、これいってるのかな」という感じしかありません。一番苦労してつらいのは、天気です。本当にこれは水物と言われる名前のおり、天気です。警報が来たりというのは当然できませんけれども、何とかの長雨だとか、それから猛暑とか、酷暑なんていう言葉もあったぐらいで、36度とかあるうちに、昼間36度の日中に、その夕方川で飲みたいと思いませんか。やはり涼しいところに行きたいですよ。それぐらいやはり天気があって、長雨みたいな部分もあると、やはりそこが浮き沈みあって、やはりうまく循環いかないということで、私は天気ですね。それ以外はあまりうまくいっていると思っていないので、引き続きあそこで損しない仕組みを皆さんと一緒に考えたいと思っています。以上です。

【長田】 ありがとうございます。

【平山】 よろしいですか。それでは、ございませんか。

それでは、鈴木さんにもう一回、我々に対する励ましの言葉をひとついただきたいと思っています。

【鈴木】 励ましですか。そうですね。きょう、午前中のうちに石巻の現場とかを見させていただき

ました。いろいろな可能性を持っている場所だとも思いますし、また、観光客じゃない多分魅力があると思うので、そこの石巻らしさみたいな部分をうまく堤防だとか、別に外飲みしろと言っているわけじゃないですよ。堤防とか、そういうものをベースに活用するというのが、多分石巻らしさみたいなものになると思うので、私どもも新潟らしさと言われても何がらしさか全然わからないんですけども、何かうまく活用していくところは、誰かのまねをして成功するパターンと、誰かのを参考にちょっと工夫するほうが多分伸びるんですよ。そこということのほうが大事だと思うので、ぜひ何年後かわかりませんが、あの堤防ができ上がって昼も夜も賑わっていることを祈念いたしまして、最後のご挨拶を申し上げます。

【平山】 ありがとうございます。

それでは、高橋さん、お願いします。



【高橋】 すみません。きょうはアドバイザーということでしたが、どうもおこがましくて申しわけなかったです。皆さんの話を伺って、やはり本当にフィールドというか現場がどんどん変わっている状況で、特に石巻市民の皆さんには一度やはり川の意識が数十年のスパンで遠のいていっている今状況だと思うので、「さあ、どうしましょう」と言ってもなかなかぱっと頭に浮かんでこれないんだと思うので、うちのPRが不足しているというのもあるのかもしれない。ぜひ川に関心を持っていただいて、今どうなっているのかなど、自分にとってここはどういうふうな生活の場なのかなどか、自分にとって何なのかなどか、気持ちいいとか、何か汚いとか、臭いとか、何かあったりとかですね、そういうちょっと川に向き合っていただくことを特に市民の皆さんとか、いろいろな事業者の皆さん含め

てやっていただければ、またアイデアも出てきて、「どうしたい」とか、「じゃうちのほう」でとかいろいろ出るかと。まずはそこから、うちはまだ一生懸命PRしたいと思うので、よろしくお願いたしたいと思います。

【平山】 どうもありがとうございます。（「平山先生。ちょっと一言いいですか」の声あり）はい。一言。どうぞ。



【新井(質問者)】 北上川の岩手と宮城の間に、水辺プラザがつくられてあるのよ。その水辺プラザをこの舟運をもしやるのであれば、どういうふうにして20年前つくって現在どういうふうになって、どう活用していったらいいのか、それをまずやる必要があると思うよ。どうぞ、あのころ平山先生が一生懸命やった地域連携交流会の事業の大きな柱として水辺プラザができ上がってきたと思うのよ。だから、思い切ってそういうこと、岩手の舟っこ会の会長の阿部さんね、内容をよく聞いていただいて、そういう状況の場所をもう一度活用できるようにしましょうと。何か目標を持っていないと、実現するのは不可能ですよ。新しいことばかりいろいろ話はあるけれどもね、古い歴史の一つ、平山先生が一生懸命やった歴史のことを再確認しましょうと。川下りしながら、ひとつよろしくお願いたします。

【平山】 非常に前向きなご意見、ありがとうございました。

13カ所、盛岡から石巻まで水辺プラザとなって、船着き場なんかがあるんです。我々も平成22年度にみちのく国づくり支援事業というのが採択されて、北上川の舟運基礎調査というのをやって、平泉から登米まで航路を調べたことがあ

りました。そのときは余り気がつかなかったんですが、最近話を聞くと、旧北に入って非常に浅くなって、ゆはずという岩手河川国道事務所で持っている舟がありますが、なかなか航行できないようなところもあるようなので、そういうのをもう1回調べ直さないと具体的な行動はできないなと思っています。

新井さんがそうやっていただきましたように、鋭意そういうことに取り組んでまいりたいと思いますので、今後ともよろしくご協力をお願いしたいと思います。ありがとうございました。

ほかに何かございませんか。

それでは、時間ちょうどになりましたので、これで終わりたいと思いますけれども、パネリストの皆さん、何か最後に一言というのはございませんか。よろしいですか。はい。

～ まとめ ～

それでは、終わらせていただきますが、石巻では川を使ったまちづくりを、一生懸命やっているところです。かわまちづくり支援事業とミズベリプロジェクトを組み合わせる進めています、最近では集中して両者がうまくドッキングしながら

進んでいるように見受けられました。行政のほうも先ほど高橋所長からお話ありましたように、可能な限りご支援をしていただけるということなので、非常に心強く思っています。ぜひ、いい水辺を使ったまちづくりをお願いしたいなど期待をしているところでございます。

盛岡と石巻を結ぶ舟運の件は、プレーヤーも必要ですし、もう少し調べないと具体化できないということもありますので、その線で今後鋭意努力してまいりたいと思っております。

きょうは本当に我々にとっても元気づけられるシンポジウムになりました。パネラーの皆様、そして会場の皆様、本当にありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。きょうはありがとうございました。



## 《登壇者プロフィール》

### 平山健一 (実行委員長、岩手大学名誉教授)

岩手大学元学長  
岩手大学地域防災センター 客員教授  
岩手県国際交流協会 理事長  
専門は河川工学・雪氷工学



### 鈴木浩信 氏 (新潟市都市政策部 次長、まちづくり推進課 課長)

1989年 新潟市役所入庁  
下水道、公園、道路、都市計画部門等を経て、  
2015年より現職



### 佐々木淳 氏 (石巻市教育委員会複合文化施設開設準備室 室長)

1983年 法政大学文学部卒業  
1984年 法政大学大学院退学  
1984年 石巻市役所に就職 主に学芸員として勤務  
2012年 東北大学大学院博士課程修了 博士(文学)  
2017年より現職



### 高橋政則 氏 (国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所 所長)

1993年 建設省入省  
2006年 国土交通省本省河川局河川環境課 課長補佐  
2007年 国土交通省気象庁総務部企画課 調査官  
2012年 香川県土木部 次長  
2014年 国土交通省四国地方整備局河川部 河川調査官  
2016年より現職



### 庄子真岐 氏 (石巻専修大学 経営学部 准教授)

2001年 東北大学農学部卒業  
2012年 博士(経済学)(東北大学経博)  
2010年 石巻専修大学経営学部助教  
2013年 石巻専修大学人間学部准教授  
2017年より現職



石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員 等

### 後藤宗徳 氏 (石巻観光協会 会長、㈱ソーワダイレクト 代表取締役社長)

1984年 石巻リバーサイドホテル(現㈱ソーワダイレクト)入社  
1998年 同上代表取締役社長就任  
2006年 社団法人石巻観光協会 会長  
2012年 石巻商工会議所 副会頭  
2017年 (一社)石巻圏観光推進機構 代表理事



### 荻谷智大 氏 (㈱街づくりまんぼう まちづくり事業部 課長)

1985年 愛知県生まれ  
東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻終了  
2015年 (㈱)街づくりまんぼう入社



### 阿部 優 氏 (北上川に舟っこを運航する盛岡の会 事務局長)

盛岡駅前東口振興会 会長  
株式会社阿部左武郎商店 代表取締役





シンポジウム

## 未来に向けた川とまちづくり

－川湊・石巻の歴史と発展－

### 北上川「流域圏」フォーラム実行委員会

事務局：(株)展勝地 みちのく民俗村管理運営事業部

岩手県北上市立花14-62-3 〒024-0043

TEL 0197-72-5067 / FAX 0197-72-5074

E-mail: [info.river@kitakamigawa.or.jp](mailto:info.river@kitakamigawa.or.jp)